

SSKA

東腎協

2004年 4月18日

No.152

東腎協第32回総会議案集

記念講演—腎疾患医療を巡る話題—

1) 腎不全における動脈硬化予防法の模索 2) 途上国腎疾患医療の現状

講師：国立国際医療センター 腎臓内科医長(人工透析室長) 斉間 恵樹先生

全腎協第34回関東ブロック会議in東京



東京都腎臓病患者連絡協議会第31回総会



東腎協第50回幹事会



東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）

事務局・☎170-0005 豊島区南大塚2-42-6 信友大塚ビル6F

郵便振替口座 00150-0-128390 ☎03-3944-4048 FAX03-5940-9556

E-mail info@toujin.jp ホームページ <http://www.normanet.ne.jp/~toujin/>

東腎協第32回 総会 次第

開会あいさつ

議長団選出

会長あいさつ

来賓あいさつ

〈報告事項〉

活動報告、収支報告

監査報告

〈審議事項の提案〉

活動方針案、収支予算案、

新役員選出

スローガン案

閉会のあいさつ

〈総会終了後、記念講演〉

第32回総会のご案内

東腎協規約第6条により、第32回総会を左記のとおり「フィオーレ東京」において開催します。透析患者にとって厳しい時代です。NPO法人化の討議もあります。東腎協にあなただの意見を！ 会員・家族のみなさん、ぜひお誘い合わせてご参加ください。

記

日時 2004年4月18日（日）午前10時開場

次第 第32回総会（午前10時30分から）

記念講演（午後1時30分～3時）

「腎疾患医療を巡る話題」 ① 腎不全における動脈硬化予防法の模索

② 途上国腎疾患医療の現状

講師 国立国際医療センター腎臓内科医長（人工透析室長） 齊間 恵樹 先生

会場 社会保険会館「フィオーレ東京」 大ホール「ローズルーム」

TEL 03（5292）6510

* 総会は午前10時30分から行われますので、参加者には昼食を用意します。

患者会幹事さんは、ポスターに同封した返信ハガキで参加人数をお知らせください。

* CAPDバッグの交換のための小部屋を用意してあります。

* 参加者はこの議案集を必ずご持参ください。

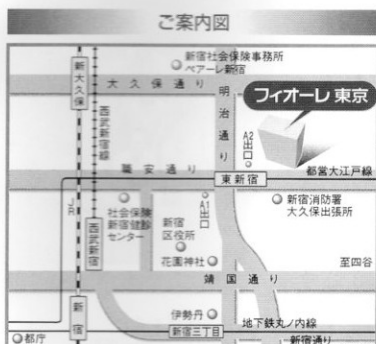
交通

・ 都営地下鉄大江戸線東新宿駅（A2）徒歩1分

・ JR新宿駅、新大久保駅、営団地下鉄丸の内線新宿駅から徒歩約15～20分

駐車場

利用できませんので、公共交通機関でおいでください。



二〇〇三（平成15）年度活動報告

一、はじめに

2003年は会員の皆さまにとって、どのような年だったのでしょうか。小泉首相は、日米安保を日本の最重要課題として、国民の意見を二分する「イラクへの自衛隊派遣」について復興支援を名目に、派遣を決定・実施しました。これにより、自衛隊の海外派遣は「戦闘地域」への派遣に新たな展開を見せました。今後、9条を中心とする「憲法改正」問題が大きくクローズアップしてきます。

一方、社会保障は少子高齢化社会を迎え、公的年金は負担が増える反面、支給額は抑制され、国民は定年後の生活に不安を募らせています。また、医療費についても今回の診療報酬はプラスマイナス「ゼロ査定」と言う中で、透析医療費については、医学管理料が引き下げられました。

東京都では1月16日、2004年度の予算原案を発表しました。一般会計予算は5兆7000億円、前年度に比べ0.4%減となっています。しかし、私たちの生活に密接な健康局の予算は1.3%、福祉局の予算は3.9%も減らされています。

このような中で東腎協は①会員拡大②NPO法人取得の検討③都立大久保病院の東京都直営による維持と腎不全センターの継続を重点として最大限の活動をしてきました。

二、主な活動と成果

1. 全国的な活動について

(1) 医療費について

2002年4月からの医療費改定で透析に関わる診療報酬は、時刻の廃止や食事加算の廃止など大規模な後退しました。今年度全腎協では、後述のように診療報酬の再改定のため精力的な活動を行っ

給公社への業務委託が決定しています。今後は当該病院の中における腎医療の拡充を求めていかなければなりません。

このように私達を取り巻く環境は医療費の面から、福祉の面からといった中で、この1年間、会員皆様とともに活動してきましたことについて報告をいたします。

670点から210点減らされ2460点になる結果となりました。

またダイアライザーの購入価格も引き下げられ、一番使用頻度が高いと思われるホロフアバー型膜面積1・5平方メートル以上のⅡ型については、従来三二九〇円だったものが、二八〇〇円に引き下げられました。このようなダイアライザー購入価格の度重なる引下げは、今後、新たな商品開発が停滞するのではないかと強く懸念されます。

(2) 診療報酬再改定のために

1) 全腎協が厚生労働省交渉

全腎協は5月22日、2004年度政府予算に関する厚労省交渉を行いました。全腎協からは油井会長ら15人の理事が参加しました。

今回の要請は①透析医療の研究の促進②臓器移植推進体制のいっそうの強化③腎疾患医療保障のための医療保険制度等の改善④透析患者の介護保障⑤透析患者らの生活保障制度改善の課題について交渉しました。

2) 診療報酬改定について

坂口厚生労働大臣に要望
全腎協の油井会長と理事3人は

7月9日、坂口厚生労働大臣を訪れ、昨年4月の透析にかかわる診療報酬の点数引下げなどについて、改定以前に戻すよう要請しました。

全腎協側は「病院が透析時間を短縮したり、検査項目や回数を減らしたり、また、スタッフの合理化を行うなどで透析医療の質が低下するのではないか」との危機感をもっていることを訴えました。これに対して大臣は「医師はいづれも患者に最適な医療を行う責任がある。それに反するなら指導しなくてはならない。全腎協が取り組んでいる調査がまとまり次第報告して欲しい」との回答がありました。

3) 第2回診療報酬改定影響調査

の結果を持って厚生労働省に要望
全腎協は2002年4月の診療報酬改定による透析医療への影響について、昨年7月に第2回「診療報酬改定にともなう透析患者実態調査」を実施し、10月中旬に結果をまとめました。

大まかな傾向として、透析時間については長時間透析が減り、短時間の施設では、透析時間を短縮する施設と時間を延長する施設の二極

化が起きています。

外来給食は、「保険適用」（いわゆる患者の自己負担がない）の施設はますます減っています。血液検査などの各検査についても実施回数を減らす施設が増えています。今回の調査から全般的に透析医療の質が低下傾向にあることが明らかになりました。

この調査結果を持って全腎協は10月30日、厚生労働省に来年度診療報酬に関する要望を行いました。主要な要望項目は次の通りです。
①透析時間枠の復活—5時間枠を含む長時間透析治療を確保してください。

②食事加算の復活—治療食である透析食が提供された場合、点数を別途設定してください。

③慢性維持透析患者外来医学管理料を引き下げないでください。

また、12月4日には民主党と共産党、12月11日には公明党に対して「診療報酬改定による透析医療への影響は明らか。是非とも時間区分や食事加算の復活を」と熱く訴えました。

(3) 介護報酬が改定「通院等乗降介助」で混乱も

4月1日から介護報酬が改定になりました。適正化を名目に全体で報酬単位数が2・3%引き下げられました。在宅サービスの改定では、「通院等のための乗車・降車の介助」が新設されました。「通院等乗降介助」は、いわゆる介護タクシーの適正化を図ることを目的としたものです。

その内容は、かかった時間に関わらず、片道1回「100単位」で、要介護度で算定方法が変わり「要介護1〜3」は「通院等乗降介助」で、「要介護4〜5」は身体介護での算定となりました。

また、移送中は算定対象とならないことや「要支援」者がサービスを受けられないなど不備な点が多く残されている。東腎協では介護保険の中に「移送サービス」そのものを盛り込むよう要望しています。

(4) 透析患者22万人を超える

6月20日、22日大阪で開かれた日本透析医学会総会で、2002年末の「わが国の慢性透析療法の現状」が発表されました。2002年末の透析患者数は22万9538人となり、前年より1万355

人増えました。

また、この1年間に新たに透析を開始した患者は3万3710人、死亡した患者は2万614人で、導入手術のうち糖尿病性腎症が1万2630人、心臓病性腎症が1万2630人、慢性糸球体腎炎が1万309人で2位となっています。

(5) 脳死臓器移植の実施

臓器移植法施行後6年が経過しましたが、昨年度までの脳死移植症例数は23例に止まっています。今年度に入ってから症例数は少なく次の3例で、年々少くなる



第50回幹事会 (2003.3.23)

傾向となっています。

9月12日、千葉県船橋市立医療センターに入院していた60代の男性が脳死と判定され、肺、肝臓、腎臓のご提供がありました。

10月6日には、愛知県の名古屋掖済会病院に搬送された50代男性が脳死と判定され、翌日にかけて心臓、肺、肝臓、すい臓、腎臓、骨、眼球のご提供が行われました。これで臓器移植法施行後の移植は25例目となりました。

さらに10月19日、鹿児島県鹿児島市の鹿児島市立病院に入院していた50代の男性が脳死と判定され、



第31回総会 (2003.4.20)

すい臓のご提供がありました。これで臓器移植法施行後の脳死判定は27例目で移植は26例目となりました。

また、現在対象外となっている15歳未満の子供からの脳死による臓器移植について、日本小児科学会は6月23日、「治療法の一つとして容認する」提言を行いました。子供の頭部外傷の10%から40%が虐待の可能性があるので、子供の人権を守るための環境整備を前提としています。これまで態度を明確にしてこなかった同学会の決定は法改正論議に弾みをつける



青年部バス旅行 (2003.5.25)

ことになるでしょう。

(6) 臓器移植の実施状況

2002年末現在の透析患者22万9538人の内、日本臓器移植ネットワークに登録している腎移植の希望者は1月5日現在、1万2609人となっています。

一方、2002年1月から12月までの腎移植数は756例で、その内生体腎移植が634例、献腎移植112例、脳死での移植が10例となっています。

また、1997年までの症例による腎移植の5年生着率は生体腎



JPC国会請願 (2003.6.2)

73%、死体腎59%、10年生着率は生体腎54%、死体腎は43%となっています。

(7) 国会請願運動について

1) 全腎協の第32次国会請願署名

3年連続で100万人達成

全腎協の「腎疾患総合対策の早期確立」を要望する第32次国会請願行動は昨年3月27日に行われ、全国から会員1800人が参加しました。今回の署名数は107万人で、3年連続で100万人を達成しました。

午前中の集会には国会議員17人と秘書60人が参加しました。午後からは都道府県代表が衆参合わせて290人の国会議員を訪ね、要介護透析患者の通院問題、診療報酬など切実な問題の解決を訴えました。当日の行動には東腎協から榊原会長ら11人が参加しました。本請願は7月28日に閉会した第156回通常国会で衆参両院ともに採択されました。

また、昨年10月から取り組んだ第33次国会請願募金運動は会員皆さまの協力により3月23日現在全腎協4万3446人、JPCは3万9926人、募金額は314

万347円で、その内105万8000円を全腎協に納付しました。なお、今回の国会請願は3月25日に行われることになっています。

2) JPCの国会請願運動

JPC(日本患者・家族団体協議会)は6月2日、79万7034人の署名を持って、「難病対策の早期確立を要望する」国会請願を行いました。集会には国会議員8人が参加してあいさつを行い、その後116人の難病患者が226人の国会議員に署名を渡しました。この国会請願行動には東腎協から榊原会長ほか5人が参加しました。本請願は残念ながら審議未了となりました。

2. 東京都に対する

要請活動

予算要請活動について

東腎協は昨年6月24日、私たちの願いを直接行政に訴える「都庁要請」を都庁会議室で行いました。東腎協からは榊原会長他14人が出席しました。各局への要望と回答の主な内容は次の通りです。

●(健康局)

1) 東京都医療費助成制度を改正

前に戻してください。

回答…都財政の厳しい中、制度は継続して行くが、制度を戻す考えはない。

2) 糖尿病性腎症の知識普及や予防・管理体制を推進してください。

回答…老人保健法に基づき、糖尿病の健康相談については引き続き重点課題として実施、充実に努めている。

3) 腎移植体制特に献腎移植の普及を推進してください。

回答…10月の月間に「意思表示カード」等を都民に配布し、腎移植を中心とした臓器移植普及推進を考えている。また、コーディネーターの連携を強化し、いろいろな機会に周知を図っていきたい。

4) 災害時の緊急透析治療体制を確立してください。

回答…東京都域防災計画支援対策により、①被災状況や透析医療の可否について情報を収集する②透析医療機関及び患者からの問い合わせに対し情報を提供する③透析医療機関からの要請に応じ電気燃料などの供給について関係機関との調整をする。

また、保健所では人工透析患者等の安否を確認し、稼動病院に關

する情報提供を行うことになっている。

5) 島しょにおける透析は、医療スタッフの確保を図るとともに診療内容を充実させてください。

回答…島しょ透析は今、神津、新島、八丈、大島で実施している。

技士については現在、静岡の病院でみてもらっている。そのバックアップとして都内の受入れも併せて充実させて行きたいと思っている。

6) 看護師や臨床工学技士などの医療スタッフを確保してください。回答…看護師については2002年度は10万3000人ですが、2006年度までには目標の10万9000人を満たすように施策に取り組んでいる。

臨床工学技士は、各医療機関において役割の大きさが認識されつつある。都立病院においても昨年まで20名でしたが、今年4月から34名と増員があった。今後とも看護師、技士の増員など人工透析にもかかわる人達の確保、向上に努めていく。

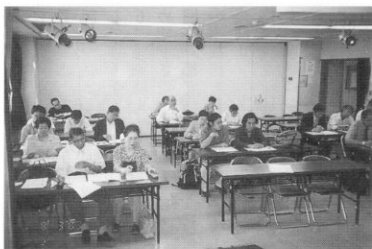
7) 乳幼児、児童、生徒、学生、勤労者、家庭婦人、自営業者などに対する検尿を完全実施し、その



2004年度東京都予算要請 (2003. 6. 24)



中南部ブロック腎事交流会 (2003. 7. 27)



地域腎友会交流会 (2003. 8. 3)



東部ブロック役員交流会 (2003. 8. 24)

後の管理体制を確立してください。
回答…乳幼児に対しては現在、全
区市町村において3才児健康診
査のとき、尿蛋白検査を行っている。
その結果、腎疾患と疑われる場合
は公費負担による精密健康検査を
行っている。
児童等については学校保健法、
また勤労者においては労働安全衛
生法に基づきそれぞれ尿検査の実
施を義務づけている。
家庭婦人、自営業者に関しては
老人保健法に基づいて、40才以上
の方を対象に実施している健康診
査のなかで尿検査を行っている。

8) 透析施設内における感染防止
対策・医療事故防止対策を指導し
てください。
回答…院内感染の発生予防につ
いては2002年3月に院内感染予
防対策マニュアルを作成して都内
病院に配布、立入検査を2002
年度中に実施した。
医療事故防止対策についても2
003年5月に病院内の自主管理
チェックリストを完成し、徹底を
図るために立入検査を5月1日よ
り行い、指導等を行っているとい
うです。

9) 透析施設に対し患者本位の治
療に努めるよう指導してください。
回答…都は患者中心の医療を図る
ため、医療に関して、都民からの
相談を受け付ける「患者の声相談
窓口」を2001年5月に医療安
全課内に設置した。
相談窓口で受けた相談苦情につ
いては相談者の意思を確認した上
で指導も、職員に対する苦情、注
意なども行っている。それで医療
機関、従業者の意識改革、医療に
おける透明性の確保を図り患者や
患者家族と医療機関とのより良い
関係作りに寄与して行きたいと考
えている。

●大島腎友会からの要望
①腎内科専門医の配置②大久保病
院を都立病院として存続希望③透
析時間をこれまでどおり実施する
ことの希望、の3点に対する回答
回答…①の内科医として腎専門医
だけを常駐させる事は逆に、他の
医療が出来なくなるので非常に問
題がある。専門診療という形で月
に1回なり、2週に1回と日時を
決めて行うのが現実的かと思われ
る。③の診療内容については即答
できません、状況を良く聞いて調
べてみます。
●「病院経営本部」

「都立病院改革マスタープラン」にある都立病院の移転統合・統廃合・地域病院化は止め、都の直営を守り下記項目を実現して下さい。

① すべての都立病院に腎外来を設置し、外来透析及び夜間透析を実施・拡充して下さい。

回答…2002年の「マスタープラン」と2003年1月の「都立病院改革の実行プログラム」で示されているように、都立病院の再編整備の考え方として医療機能の集約化と、都立病院間のネットワークを充実し、結果として都内全域における医療のサービスの向上を計るのが基本の考えであります。

② 大久保病院については、長期透析の合併症、特に整形外科系の合併症に対応できるよう診療内容を充実して下さい。

回答…都立病院再編整備計画の中で大久保病院については、1月の「実行プログラム」の中でも透析医療に関しては引き続き行っていくことになっている。特に透析導入および合併症については地域の医師からも要望がある。

そのような関係上、2003年度の医療機器の更新に関しても財

政上厳しい中、血液浄化装置やLDLの吸着装置については病院側の希望もあるので、新規に導入した。臨床工学技士の配置についても配慮して行く。

③ 豊島病院については、糖尿病からの透析治療を中心とした腎不全センターを設置して下さい。

回答…「マスタープラン」により老人医療センターを含め、民営化する計画になっている。この再編整備のなかでは、腎不全センターは計画にない。

しかし板橋区が区立病院としたという意向で現在区でも検討され今後、健康局へも協力して欲しいとの要望が出されている。これについてはもう暫く時間を頂きたい。

④ 府中病院については緊急に透析室を拡充し、スタッフの確保をして下さい。

回答…現在古い病棟の1階に透析室を設けて行っている。今後、再整備の動きもあり、現段階では拡充の計画はありません。

⑤ 看護師や臨床工学技士などの医療スタッフを確保して下さい。

回答…臨床工学技士については現在の20名から34名と14名の増加を

図っている。2004年度の要求にも臨時透析に対応できるよう増員を要求してゆく予定。看護師につきましても同様増員要求をしてゆく予定です。

●《福祉局》

① 心身障害者医療費助成制度を改正前に戻して下さい。

回答…都は福祉政策について、社会経済状況の変化や負担の公平性、介護保険制度の整合性等の確保などの観点から、経済給付的側面を見直すと共に2000年12月に作成した福祉改革ビジョンなどに基づいて、在宅サービスを中心とする福祉サービスの充実を図ることとした。

⑥ 感染防止・医療事故防止に努めて下さい。

回答…都立病院については数年前の事故例を基に全都内における感染防止マニュアル、院内における対応整備を全區にも、また病院経営本部も意識を持って対応するよう考えています。現在病院の看護師とか、現場のみならず事務方も合わせて医療事故防止に努力し、当然のことながら今後も事故防止の充実に向けて進めて行きます。

⑦ 患者本位の治療に努めて下さい。

回答…都立病院につきましては2001年7月に都立病院患者のために「患者の権利章典」を制定し、患者の権利を守るため病院内に張り出して患者にも見てもらっている。院内においても権利章典に基づいて患者本位の治療に院長のリーダーシップをもとに全員に周知している。併せて医療事故なども防ぐ意味から院内研修を行っている。

② このような中であって心身障害者医療費助成制度についても2000年9月に所定の改正を行ったものであつて改正前に制度を戻す考えはありません。

③ 内部障害者は4級まで医療費を公費負担にして下さい。

回答…本制度は重度障害者（児）の医療の困難性とその経済的負担の大きいことに着目して医療費の公費助成を実施する制度であつて、特に医療技術の高い内部障害者に対しては3級まで対応しているのがご要望の対象を拡大する考えはありません。

③ 心身障害者福祉手当を増額し、支給要件を改正前に戻して下さい。

回答…福祉改革推進プランとその



多摩部ブロック学習交流会 (2003.8.31)



第51回幹事会・学習交流会 (2003.9.28)



臓器移植キャンペーン (東部) (2003.10.5)



臓器移植キャンペーン (北部)

後、2002年に出了した「東京福祉改革ステップⅡ」等に基づいて障害福祉分野では福祉サービスの充実をはかっている。このようなかで2000年8月に心身障害者福祉手当制度を改正したもので、これについて支給要件を改正前に戻す考えはありません。4)「福祉のまちづくり」実現のため、その予算確保に最大限努力して下さい。

回答…だれもが住みなれた地域で住み続け、自由に行動し社会参加ができる、福祉の配慮のある町、東京をつくるため、2000年度から福祉の街づくり支援事業や、鉄道駅エレベーター等、5ヶ年間にわたってバリアフリー化緊急整備事業を計画化し、福祉の街づくりを着実に進めている。

今後とも都民、業者、区市町村とも協力して事業の推進に向けて努力していく。2003年度は福祉の街づくり地域支援事業と、鉄道駅エレベーター等の建設事業、ノンステップバスとその停留所、リフト付きタクシーへの補助で31億円を予算化している。

5) 要介護透析患者や合併症を持った透析患者の対策をすすめて下さい。

回答…介護保険では要介護と認定された方も、通院などの乗車または降車の介助については訪問看護サービスが利用できる。

6) 介護保険制度で透析患者の移送サービスを実施して下さい。

回答…移送部分については特別給付として実施している区市町村を除いて介護保険の給付は認められていません。

7) 老人医療センター内に高齢者腎不全センターを設置して下さい。

回答…老人医療センターは板橋と多摩の2ヶ所あり、どちらも65才以上の方を対象に地域の医療機関と連携して、一般の医療機関では対応が困難な急性期における高度専門医療を実施する方針で運営している。

3年4月に一般病床2000床、痴呆が120床、合計3200床で全面開設した。透析ベッドは4床確保している。現在、透析で合併症を保っている方7名が透析を受けている。

板橋は2002年度に腎臓内科医師1名が年度途中で退職し、残る1名が体調不良で実績が落ちている。2001年度は130名、2002年度114名という数字になっている。2003年度では腎臓内科に2名の医師を配置していますので、そのような事がないよう努めていますのでご理解ください。

●《教育庁》

児童、生徒に対する学校検尿による腎臓病の早期発見と学内での予防と管理を徹底して下さい。
回答…現在全区市町村で3才児検診時の尿蛋白検査は公費負担で行っている。都では1次検査の結果必要な方には2次検査を行い、2次検査項目も尿、糖、潜血となっている。その結果で必要な方には3次検査として、血液検査を含む詳しい検査を行っている。

日常の健康管理については、担当教諭等による日常の健康観察、

又は検尿の結果腎臓の管理指導票などに基づいて、保護者と学校の連携を持って指導するようになっている。

●《総務局》

1) 東京都職員は障害者雇用率アップと、人工透析患者を東京都職員に採用して下さい。

回答…都における障害者雇用率に関しては法律では2・1%であるが、これを上回る3%の雇用率に向けて努力している。

また、身体障害者特別選考を実施しており2003年4月1日までに透析患者を含め548名の採用をしている。

2) 大規模地震に備え近隣県との透析ネットワークを構築し、患者の移送体制と緊急透析治療体制を確立して下さい。

回答…透析の救護については具体的な対応は健康局が行う事になる。日本透析医学会のネットワークの仕組みの中では、基本的には現在透析を受けている主治医に災害の場合、どこの病院が良いのかとか、受け入れ先を紹介してもらおうというシステムになっていると聞いている。

都として100%情報を把握し

ているとは限らないので、皆さんが平常時から2、3の施設を主治医から紹介して貰っておくのも一つの方法だと思っています。後は交通手段がどのようになっているかが心配で30〜40kmも歩いて行かねばならないようでは大変なことで、当然交通規制もひかれて災害者の緊急搬送が優先となるでしょう。

●《産業労働局》

1) 腎機能障害者の雇用促進を国に働きかけてください。また透析患者が働きやすい環境づくりをして下さい。

回答…職業安定行政と言うのは、国の一元化が図られ、公共職業安定所、ハローワークは東京労働局の管轄になる。皆様の要望の趣旨は、各種連絡会等を通して東京労働局に伝えます。

東京都では東京労働局やハローワーク等と連携を図り、障害者雇用の充実を図られるよう、事業主に対して普及啓発に努めている。2002年6月1日付で国が発表して雇用状況は、都内に於ける民間企業の障害者の雇用率で1・32%で、前年と同率であると発表されている。

回答…(環境づくりについて)

腎機能障害者を含めて内部障害をお持ちの方々については雇用管理上の配慮事項として、勤務時間なども含めて、障害者雇用の諸制度とか、支援機関などを紹介する事業主向けの「事業主と雇用支援のための障害者雇用促進ハンドブック」の改訂版を8月に1万部出版した。

ハンドブックはハローワーク等を通じて企業に配布するなど、事業主の方々に対して障害者雇用の促進について理解を促すよう努めている。このような形で国や事業所に対して引き続き働きかけていきます。

3. 都議会に対する要請

東腎協は今年度も私たちの要望実現のため、2004年度東京都予算に関する各党ヒアリングに参加しました。

今年度のヒアリングは10月14日に民進党、公明党、共産党、生活者ネットワーク、10月15日に自由民主党に対して行いました。

要望内容は都庁要請と同様ですが、ヒアリングでは特に医療費公費負担の堅持・継続に関わる要望



臓器移植キャンペーン（中南部）

項目への訴え、マル障・マル都の改正前への回帰、腎臓移植施策の推進、都立病院の直営維持への願い等を要請し、また、福祉施策の後退を止め、よりいっそうの向上・充実を求めてきました。

4. 第23回腎臓移植普及 推進全国街頭キャン ペーン

した厳しい現実の中で、今後は街頭キャンペーンの方法を見直していくことと、恒常的な活動にも取り組んでいく必要があります。

東腎協は毎年各ブロック単位で街頭キャンペーンを実施してきました。しかし、全国的にもこれまでの街頭キャンペーンでの臓器提供意思表示カードの配布では、実際に移植になかなか結びつかないのが現状です。

こうした現状を踏まえて、今年度は臓器移植患者団体連絡会（臓移植連、全腎協を含む関係6団体で構成）の銀座パレードにリンクす



臓器移植キャンペーン（多摩部）

る形で銀座地区のキャンペーンを行いました。

臓移植連のパレードは東腎協会員40人を含む140人が参加し、好天の銀座を約1時間にわたって練り歩きました。その後、東腎協は銀座・数寄屋橋公園で意思表示カードや移植啓発のためのグリーンバッジなどを配布しました。

5. 「腎臓病を考える 都民の集い」の開催

第16回目となる「腎臓病を考える都民の集い」は本年1月18日、



中南部ブロック会員交流会（2003.10.19）

豊島区民センターホールで開催しました。当日は天候にも恵まれ、一般都民、東腎協会員など合わせて199人が参加しました。

会は、毎年ご協力をいただいているジャーナリストの松村満美子さんの司会により、榎原会長、東京都疾病対策課清古課長のあいさつではじまりました。

第1部は講演で、最初に日本医科大腎臓内科部長・飯野靖彦先生から「糖尿病からの透析を遅らせる方法」、次いで東京女子医大第2病院内科教授・佐中孜先生から「腎臓の悪化を防ぐ食事管理」と



中南部ブロックバス旅行（2003.11.2）

題する話を聞きました。

第2部は講師の先生に加え、東腎協会員で現在CAPDをしている鈴木英範さんに加えてのシンポジウムを行いました。シンポジウムでは会場からの質問にも対応しました。

また、会場ロビーでは樋口千恵子先生（東京女子医大第2病院）、鈴木孝子先生（高島中央総合病院）による医療相談が行われ、14人が受診しました。

豊島区民センターホールは収容力が287人で少し狭い感じがしますが、同じところで毎年開いているので、出席者の一般市民の占める割合も多く、腎臓病の知識普及という面から一定の成果を挙げていると評価できます。

6. 東腎協31回総会の開催

東腎協の第31回総会が昨年4月20日、新宿の東京社会保険会館・フィオーレ東京で開催され、会員・家族など227人が参加しました。

記念講演は、2002年4月の診療報酬改定で透析の短時間化が危惧される状況の中で、長時間透

析を実践している医療法人かもめクリニック理事長の金田浩先生に「4時間では透析不足!」——いまま長時間透析が求められるわけ——と題する講演をお願いしました。金田先生は長時間透析の必要性を熱く語りました。

7. ブロック活動

●区中南部

区中南部は昨年7月27日、南大塚社会教育会館において、今年度最初の交流会を開きました。主なテーマは、①学習交流会の演題について②会員拡大について③区中南部のバス旅行について、の3件でした。

幹事の方々から、会員拡大についての議論が出され、会員拡大の方法と、会員のメリットについて話し合われました。バス旅行については、11月中旬に行うことを確認しました。参加者は25人でした。

今年度2回目の交流会は10月19日、東京都障害者福祉会館で開催しました。今回は、①会員拡大について②NPO法人取得について③災害対策について、でした。

①に関しては、会員としてのメリットが必要との意見が多く出されました。②に関しては、会員全員にその意味を周知することが必要との認識で一致しました。③の災害対策については、地震に際しての施設側の対応と阪神淡路大震災被害状況の2巻のVTRを見て参考にしました。

11月2日には会員31人が参加して、箱根紅葉散策のバス旅行を行いました。往路、復路とも交通渋滞に巻き込まれ、予定を大幅に変更しなければなりませんでしたが、久しぶりの温泉に楽しい時間を過ごしました。

●区北部

区北部では7月21日、今年度第1回目の活動として果鴨社会教育会館において幹事交流会を開催しました。交流会のテーマは①東腎協新体制の説明②会員拡大の方法について③ブロック内の活動について、でした。出席者は23人でした。

今年度2回目の活動として、学習交流会を11月30日、豊島区民センター会議室において開催しました。今回のテーマは「維持透析患者さんのブラッドアクセスについて」で、講師は板橋中央総合病院の赤松真先生にお願いしました。

先生には映像を示しながら、ブラッドアクセスの合併症からその対処方法まで詳しく説明していただき、参加者から好評を得ました。今回の交流会には38人が出席しました。

●区東部

今年度の最重点項目の会員拡大をブロック活動の内で推進するに当たり、8月24日に東部ブロック交流会を江戸川区文化センターで開催しました。12患者会から幹事・役員31人が参加しました。

私たちを取り巻く厳しい情勢の中で、諸制度を守り抜くためには、行政や議会への訴求力が必要であり、各患者会3名会員を増やすことを目標に努力をすることを確認しました。

また、今後の活動の方向性を決めるNPO法人の取得の是非を判断していただくための情報の一つとして、NPO法の権利と義務について、そのポイントとなることを説明しました。その後、各患者会現状報告をしていただき、それぞれの患者会で会員拡大のための取り組みの参考にしていただい



北部ブロック学習交流会 (2003.11.30)

た。
これとは別に組織率が低迷している患者会については個別に、幹事さんおよび役員さんにその辺の事情をお聞きし、その原因を探りました。
本年2月1日、後楽園の東京ドーム「スバ ラクシア」で親睦交流会を開催しました。参加者は9患者会35名でした。現地集合後、各自、自由行動にて温泉を堪能。午後からは親睦交流会を行いました。4つのテーブルに分かれ、それぞれ、患者会運営についての情報交換やNPO法人格の取得の必



第54回関東ブロックin東京 (2003.12.6)

要性の確認のための話し合いを行いました。
また、会員拡大の方法論として、区の単位の腎友会をつくりその中で、未加施設の勧誘など行うなどの方向性を確認することができ、来年度の活動の展望が見え有意義な意見交換が行われました。
●多摩部
多摩ブロック幹事交流会は6月22日、多摩障害者スポーツセンター会議室で開かれ、会員20人が出席しました。
今年度最初の交流会ということ



腎臓病を考える都民の集い (2004.1.18)

の会員拡大について、各患者会の組織率を確認しながら現在までの取り組みを話し合いました。また、2002年度から行っている小ブロックの交流会を今年度も開いていくことを確認しました。
8月31日には国分寺しホールにおいて134人の参加を得て、学習交流会を開催しました。テーマ「透析治療の合併症について」を東京医大八王子医療センターの松野直徳先生に、「移植の現況」については同センター・コーディネーターの窪田基子先生にそれぞれ講演していただきました。大変



東部ブロック会員交流会 (2004.2.1)

分かりやすい合併症の話と、なかなか情報が伝わりにくい移植の現状がわかり、参加者から好評を得ました。
後半は今回初めての企画で、シンポジウム「元気で長生きを」をテーマに、実際に元気で長期透析をしている仲間の話に参加者一同「元氣」をもらいました
その他、多摩部は面積も広く、会員数も多いことから、2002年度からブロック内をさらに小ブロック分けて交流会を開催してきました。
今年度は3月2日に青梅治療交

流会、7月27日に立川・国分寺地域幹事会、10月14日には 町田・八王子地域の交流会を開催してきました。

8. 会員交流会の開催

個人会員交流会は、今年度最後の日曜日にあたる2月29日、事務局近くの南大塚社会教育会館第一会議室で開催され、会員47人、役員15人が集いました。

当日の内容は東腎協藤原副会長からNPO法人取得に向けての説明があり、その後質疑応答が行われました。NPO法人取得に前向きな意見や、役員の努力について、支持するとの表明があり、個人会員からグルーピング化を目指すとの発言もあり、役員一同力づけられました。

今回の医療講演は板橋中央総合病院の赤松眞先生に「血液透析におけるブラッドアクセスの大切さ・ブラッドアクセスのトラブルについて」と題して講演していただきました。具体的な話と手術のスライドにより、私たちの命綱であるブラッドアクセスの重要さがひしひしと理解されるものでした。

患者自身の知識取得による自己防衛も大事であることを教えていただきました。

9. 第6回地域腎友会交流会

今年で6回目となる地域腎友会交流会を8月3日、東京都障害者福祉会館で開催しました。交流会は5つの地域腎友会から29人が参加しました。

はじめに各会からの活動報告に始まり、休憩後にNPOさくらの会の高野氏から要介護者の通院送迎について話を聞きました。高野氏は話のキーワードとして「共感」という言葉を使い、「病院の患者会でもそうだが、送迎の利用者自身にも「共感」を感じない人がいて、ボランティアの気分を悪くさせて、やめてしまった事例もある。患者会からの紹介は少なく、ソーシャルワーカーと協力をするのが、もつともよいのではないかと」発言されました。

●参加地域腎友会からの報告

1) NPOさくらの会

て発足。送迎は月500回、交流会や、臓器移植意思表示カードの配布もおこなうことにしている。

2) 江戸川区腎友会

本年度は、講演会や臓器移植意思表示カードの配布、バス旅行、他団体との交流などを行った。年度末になり原会長の逝去があり、新年度体制を急ぎよ整えた。

3) 江東腎臓病を考える会

定例会、講演会の開催、役員会、会報の発行をおこなった。また、江東区の難病連に入って活動している。

4) 荒川腎友会

江戸川の流れを見習って、災害時の腕章の配布を要望した。また、新年会などの親睦会、料理教室、ストレッチ体操にも取り組んだ。

5) 町田市腎友会

役員会を年間8回開きました。会報は年6回出す予定で8月現在2回発行している。市役所に臓器提供意思表示カードを常時置いて補充している。

10. 学習交流会について

今年度の学習交流会は9月28日、幹事会終了後同じ戸山サンライズに日本透析医会会長・山崎親雄先生を迎えて、「どうなる今後の透析」をテーマに講演をお願いしました。

透析に関わる診療報酬改定はこれまで4時間未満・1630点、4時間以上5時間未満・2110点、5時間以上2210点というように時間に見合せて設定されていましたが、2002年4月からは時間制が廃止され、時間に関係なく1960点に統一されました。この結果、これまで5時間透析をしていた人が4時間に統一されるのではないかと危惧が生まれました。

また、食事加算が廃止され、多くの透析施設では給食の有料化が進んでいます。さらに、医学管理料(検査料)も130点下げられ、検査の内容や回数が減らされる結果となっています。

このように、ますます厳しくなる透析環境の中で、私たちは「今後の透析はどうなるんだろう」と

いう思いを共有しています。

講演の中で山崎先生は、日本における透析の成績がよい理由として、①時間が長いこと②ダイアライザーのリユース(リユース)がないこと③水処理のよさ、HDFの導入、高機能ダイアライザーの使用④そこそこお金がかかっていること⑤手間がかかっていること、を上げ解説しました。

また、社会的条件で左右される透析医療の内容についてデータに基づき適切な解説をしていただきました。



青年部東腎協、埼腎友ボウリング大会(2004.2.22)

11. 委員会活動について

●編集委員会

編集委員会は昨年3月15日発行のNo.147議案集に始まり年4回、表紙カラー・A4判・中身24・28ページの機関誌の定期発行を守りました。また、「都民の集い報告集」を発行しました。

内容についても「知ってにっこり」、「用語・略語集」のページ新設、「コラム大塚発」の復活などを果たしました。委員会の活動を反映した「災害対策」や「NPO」

の特集も掲載しました。

「第15回腎臓病を考える都民の集い報告集」は、講演の先生と何回もの校正を重ね、11月15日「号外」として発行できました。

機関誌については毎号発行ごとに事務局で打ちあわせ会を開き、校正は3校までとして、誤字等を少なくするよう努力しています。企画については編集委員会を4回開き検討してきました。これから

も一人一人の会員のお手元に届く、東腎協と会員との唯一の絆である機関誌を、読みやすく、ニーズにあったものにしていくよう努力していきます。

●組織対策委員会

組織対策委員会は今年度活動方針の最重要項目に掲げた「会員7500人」を目標に、3つの活動企画を立てて最大限の努力をしてきました。

第1は「東腎協加盟の患者会内で3人以上会員を増やす活動」、第2は「未加入施設へ働きかけて新規患者会を設立する活動」、第3は「解散または休会中の患者会に対して会の再開をお願いする活動」です。

その内、第1については、各ブ

ロック単位の交流会等を通じて各幹事さんに協力を要請した結果、大変ご理解をいただき、現在に至るまで患者会内において会員増に努力を続けていただいているところ です。

そして9月の幹事会を上期の区切りとして、「活動成果報告」の提出をお願いし、集計を行いました。が幹事の皆様のご努力により、新加入会員を多数獲得された一方で、転院される方、不幸にもご逝去される方も多く、結果的には実質会員増に繋がらなかった患者会が多く、無念さを感じます。

そんな中でも幾つかの患者会では大きな成果を挙げられたところもあり、各患者会一丸となり、会員拡大達成のためにご苦労、ご協力をいただいたことに感謝いたします。

今後も組織率向上と会員拡大は東腎協の宿願ですので、新加入会員獲得への熱意は持ち続けていただきたくお願いいたします。第2、第3の活動企画については、各ブロックと協調して、それぞれ10施設くらいを目標に新規患者会設立または復活説得に努力を継続していますが、本年度の新規患者会設

立は1カ所に止まりましたが、新規設立に向けて進行している施設が数ヶ所あることは明るい見通しと考え、来期に繋げていきたいと思っています。

●災害対策推進委員会

第1回委員会を4月17日、東腎協事務局で開きました。第1回委員会では身近な問題をテーマに活動することを決めました。

第2回委員会は6月15日に開き、1995年12月に行った災害対策意識調査を再度行うことにしました。今回は特に「自分の身は自分で守る」をテーマとすることにしました。

さらに7月20日に第3回、9月14日に第4回委員会を開き討議を重ね、11月の常任幹事会で患者会への意識調査の実施を提案し承認されました。調査は12月・1月中旬に実行することになっています。

また、全腎協主催の災害対策委員会は4月24日、6月19日、8月21日の3回にわたり東京で開かれ、全腎協、東京、神奈川、静岡、愛知、兵庫の各代表と油井会長を含めた7人で、東海、東南海、南海地震対策を中心としたテーマで災害対策の諸問題を話し合いました。

結論としては、現在出されている「災害対策マニュアル」の改訂版を作成し、都道府県組織に示すこととし、全腎協からの要請として、各透析施設の施設長に①緊急時連絡網の作成②緊急離脱セットの設置③避難訓練の実施④緊急時透析医療提供体制の確保などについて施設患者会役員とともに要請を行うこととし、全腎協の5つの提言を決定し会議を終了しました。

●行政委員会

今年度の行政委員会(前涉外委員会は、3月27日の第32次国会請願行動に、他の常任幹事と参加したことからはじまり、6月にはJPCの国会請願行動参加と、6月24日には前もってレクチャーを行い、準備を整えた上で「都庁要請」を行い、都庁各局へ東腎協として、全会員としての要望や願いを真剣に訴えてきました。

特に医療費公費負担の堅持・継続に関わる要望項目への訴え、マル障・マル都の改正前への回帰、腎臓移植施策の推進、都立病院の直営維持への願い等を要請し、また、福祉施策の後退を止め、よりいっそうの向上・充実に求めています。

10月14日には毎年行っている東京都議会各会派の「都予算に対する要請ヒアリング」が行われ、民主党、公明党、共産党生活者ネットワークの各会派、それに本年度は、初めて自由民主党のヒアリングも受けるという画期的なこともあり、大変有意義な都議会要請ができました。

行政委員会としては今後も大きな目標、目的として、私たち透析患者の「いのちと暮らしを守る」、「福祉と生活の質向上」を目指し、政治と行政に携わる人達とよりよいコミュニケーションをとることに努力し、その実現を目指すべきだと考えます。

●NPO法人取得検討委員会

NPO法人(特定非営利活動法人)検討委員会

昨年4月20日開催の第31回総会で決議されました活動方針の中で、「NPO法人取得を検討する」ことになりました。この決議に基づいて5月に、常任幹事の中から8人の検討委員が選任され、検討を行ってきました。

最初は、「NPO検討委員の理解を得るため、NPO法人とはどういうものなのか？」から始まり、

「取得の要件」や取得した場合のメリット、デメリット等について説明や討議を行い、最終的には東腎協がNPO法人化された場合の概要を作成することができました。

委員会としては、「メリット、デメリット等いろいろ考えられたが、今後の社会・経済動向等を総合的に勘案した場合、NPO法人化していく必要がある」と言うことで一致しました。そこで、9月14日開催の第277回常任幹事会に検討結果を報告し、討議の結果「今後は実施する方向で検討を進める」ことが決まりました。

以上の結果を経て、9月28日開催の第51回幹事会に討議事項として上程し、配布した資料を基に説明を行いました。その後、出席者を東部ブロック等4ブロックに分けて討議を行い、理解を深めました。今回の説明を各幹事が患者会へ持ち帰って、会員に説明を行い、さらに理解を得るよう努めることになりました。

なお、今後会報「東腎協」等でも、できるだけ分かり易く解説を行って、情報を提供するよう要請がありました。今後の予定として

は、3月21日開催の第52回幹事会や4月18日開催の第32回総会に上程していくこととなりますが、これらの会議で「NPO法人化」が承認されれば、改めて「法人設立総会」を開催して、その後、設立申請手続きを、都生活文化局に行うこととなります。

●患者会サポーター委員会

患者会サポーター委員は会員の皆様の問い合わせや相談に対応し、その集約を行い、常任幹事会や会員の皆様にお知らせして、みんなで議論することで解決を図ることを目的に今年度新設されました。

そのための情報公開を積極的に進める手始めとして、東腎協の活動経過やその内容と活動予定を、速やかに各患者会へ伝達するため、「東腎協ニュース」の編集を担当し発行してきました。字は出来るだけ大きく、内容は簡潔に記す事を心がけ、今年度は5回発行することができました。

会員の皆様の問い合わせの集約については、事務局員が電話にて対応した記録を患者会サポーター委員で分担してパソコンに入力し、過去の相談対応事例が直ぐに検索できるように整理をしている途中

です。もう少し事例が収集できたら、これらの問題を分類し、常任幹事会としての統一見解などを整理し、各患者会での相談活動や問題解決のための手引書に利用できればと考えています。

なお、現在まとめている分についてその項目を挙げると、次のようなものがあります。「各種制度の問い合わせ」「食事、治療食、栄養飲料について」「透析中の障害（血圧の低下）」「患者会の人間関係」「施設の紹介」「透析導入時の精神的サポーター」「透析導入時の不安の軽減」「長期透析者の合併症の痛み」「長期透析者の移送問題」「働く透析者の意識」などです。

12. 青年部の活動について

五月晴れの5月25日、今年度第1回交流会として長瀬へ日帰りバス旅行を実施しました。車中、ビンゴゲームを楽しみながら、まずは寄居駅に向かい、「SLバイオエクスプレス号」に乗りました。石炭の煙がもうもうと立ち昇り、まさに旅気分です。SLを長瀬駅で降り、昼食その後、自由散策の

後、「長瀬ライン下り」へ。およそ20分程の乗船でしたが、急流と静かな流れと両方が体験できて、楽しめました。帰りは、カラオケや雑談などをして帰るうちに渋滞も無くあつという間に新宿へ到着しました。とても楽しい1日となりました。

第2回交流会は9月21日、武蔵野市民会館に14人が参加して料理講習会を行いました。「中華に挑戦」と題して、チンジャオロース、中華春雨サラダ、トマトサラダ、レンジ添え、フルーツ白玉を作り

ました。みなさん手際よく、予定の時間より早く調理が終了し、肝心の味も各班美味しくできました。第3回交流会は2月22日に今年度最後となるボーリング大会を中野サンプラザにて行いました。ボーリング終了後には、海鮮居酒屋「さくら水産」での新年会を行い、楽しく交流を行いました。今回の交流会では、増腎友青年部の協力を得て、合同交流会を実施することができたのはこれからの青年部の活動にとって、大きな前進となったと思います。

13. 機関誌「東腎協」の発行

機関誌「東腎協」は今年度も年4回の定期発行をしまして、会員への情報提供に努めました。

今年度最初の機関誌は5月発行のNo.148で、第31回総会の報告と医学講座「透析患者における整形外科的疾患の考え方」を特集しました。

7月にはNo.149を発行しました。特集には第31回総会の記念講演「4時間では透析不足!? いま、長時間透析が求められるわけ」を8ページにわたって掲載しました。

次いでNo.150を10月に発行しました。特集記事は「災害に備えて」で、いつ起こってもおかしくない、といわれる東海地震や直下型の地震に備えて、日頃からの災害に対しての心がまえを訴えましました。

今年度最後となるNo.151は1月に発行し、特集は「東腎協のNPO法人化について」です。第51回幹事会で取得に向けての方向は了承されたのですが、会員への理

解をより深めるための記事としました。

14. 全腎協活動への参加

(1) 全腎協山口大会に参加

全腎協は5月18日、NPO法人山口県腎友会とともに、海峡メッセ下関(山口県下関市)で第7回目の全国大会を開催しました。1069人の会員、家族、医療関係者、行政関係者、市民が参加した本大会は、日本の社会保障制度の加速する危機を前にして、腎臓病患者のいっそうの団結を訴えるとともに、新しい運動のあり方を模索する大会となりました。

会では、主催県および全腎協会長挨拶につき、患者の訴えでは3人の患者が参加者に向けて、各々の思いを語りかけ、会場からは大きい拍手で迎えられました。

午後からは①長期透析患者の合併症対策の予防と対策②糖尿病性腎症の医学的管理③腎臓移植の更なる普及を目指して④CAPDの普及には何が必要か⑤増えつつける透析患者と医療費⑥腎臓病患者の就労と所得保障⑦魅力のある患

者会を目指しての7つの分科会が行われました。

東腎協からは榎原会長ら17人が17日夜の交流会と18日の大会に出席しました。出席者はそれぞれの分科会にわかれて出席し、帰京後はそれぞれ、レポートを提出しました。

(2) 全腎協代表者会議を開催

全腎協は7月5日、6日、都内で全国代表者会議を開催、各組織代表、理事、事務局員ら68人が参加しました。会議は①組織問題②診療報酬改定に向けて③臓器移植腎臓移植の普及をめざして④全腎協と各県組織とのより強力な意思統一を築くために、の4つのテーマについて2日間に亘り熱心な討議が行われました。

(3) 関東ブロック会議

第53回全腎協関東ブロック会議が7月12日、13日の2日間、山梨県の石和温泉を会場に、1都7県から56人が参加して盛大に開かれました。

1日目は山梨県腎臓病協議会会長並びに全腎協理事のあいさつにつき、各県からの活動報告が行

われました。議題となっていた災害対策については、委員長を含め、委員会そのものの再構築を図ることになり、再開に一歩後退した感じはなまません。また、懇談の会員拡大では各県とも役員不足、高齢化等の問題を抱えており、今後参考例を交換しながら進めていくことになりました。

診療報酬改定後の影響については徐々に変化が出始めている、また、現在各県の重度心身障害者医療費助成制度で助成されている高額療養費の1万円にも手がつかられようとしているとの報告もありました。さらに腎移植が後退している問題で、現状の継続の限界が指摘されました。

2日目には今後の関東ブロック会議の進め方について話し合いました。2日間の感想としては各県共通の問題が山積みされている中で、どのように話し合いを進め、それをどう全腎協の活動に生かしていくのか、全腎協として各ブロック会議の位置づけを再考する時期ではないかと感じました。

今年度2回目となる第54回関東ブロック会議は4年ぶりに東京の担当で12月6日と7日、チサンホ

テル浜松町で開催しました。

前回、山梨大会で、「もっと討議時間は欲しい」との要望を受け、東京大会は分科会形式をとり、予め会議室を3室確保しました。

1日目は全体会議であいさつの後、全腎協報告、各県からの報告の後、議題①診療報酬改定に向けて議題②関東ブロック会議のあり方について、の二つの議題について討議を行いました。

2日目は分科会形式で、第1分科会「組織問題について」、第2分科会「災害対策について」、第3分科会「青年部の育成について」の3つの分科会に分かれて討議を行いました。

特に課題となっている「関東ブロック災害対策推進委員会」の再開については、次回長野県大会までに結論を出すことになりました。

今回の大会は分科会形式のため予算的にかなりオーバーしましたが、参加各県からは好評をいただきました。

(4) 第4回通院介護

支援事業交流会

全腎協は11月1日、2日に東京都内で第4回「通院介護支援事業

交流会」を開催しました。32都道府県と37事業団体から84人が参加しました。

初日の全体会では、長崎県の「ほえみ福江」、北海道の「サポーター室蘭」から活動の経験を話していただきました。

その後第1分科会「立ち上げのノウハウを学ぶ」、第2分科会「研修方法・コミュニケーション」、第3分科会「通院支援の今後の在り方」に分かれて、交流や自由討議を行いました。

2日目は、「ネットワークの必要性と患者会が取り組む意義」と題するNPO法人自立生活支援センターハートいしかわ・須戸哲氏の講演を聞き今後の活動の参考となりました。

この交流会には東腎協から役員1人が参加しました。

(5) 全腎協が各県組織の通信ネットワークを整備

全腎協は2002年10月から2004年3月にかけて「全腎協通信ネットワーク事業」を実施しています。全腎協と各県組織間との通信システムを構築し、全国的な情報支援を目指しています。

今年度は8月に東腎協にノート型パソコンとA3用紙対応のインクジェットカラープリンターが支給されました。

(6) パソコン通信研修会

全腎協は昨年9月27日と28日、チサンホテル浜松町においてパソコン通信の研修会を開催しました。対象は都道府県組織事務局担当者で、パソコンの操作、インターネットの利用などについて、基礎的な操作を習いました。東腎協からは会計担当と常任幹事1人が参加しました。

(7) JPCが第18回総会

JPC（日本患者・家族団体協議会）は6月1日、東京のホテル浦島で第18回総会を開催しました。本年度の活動報告として、難病対策の見直しと小児慢性特定疾患治療研究事業の見直しなどの運動に取り組んだことを強調しました。

この動きは、国会内に超党派で難病問題に取り組み合意を創りだすことに成功しました。さらに、難病対策予算の増額や難病相談支援センターの設置などの成果も挙げました。

一方では、難病対策の予算は制度的補助金とされたことや、対象疾病の毎年の見直しや軽症患者の一般医療への移行など、新たな課題が山積しています。こうした課題に対して、積極的に働きかけていくことを確認しました。

(8) 臓移植の運動

4月8日、臓器移植患者団体連絡会（臓移連）の結成総会が開かれました。全腎協、全国心臓病の子どもを守る会、ニューハートクラブ、日本肝臓病患者協議会、胆道閉鎖症の子どもを守る会、日本移植者協議会の6団体で構成されています。同会は臓器移植法の見直しと並んで臓器移植の普及推進事業にも力を入れていく方針です。

総会では代表幹事に大久保通・日本移植者協議会会長、副代表幹事に栗原絨隆全腎協副会長をそれぞれ選出しました。また、8月には「臓器移植の普及に関わる諸願署名」に取り組み、9月12日現在東腎協の署名数は2万3182人となっています。

16. 他団体との連携

(1) 東難連

東難連は今年4月に新しく多発性硬化症の若林章氏を理事長に、東腎協を含む加盟14団体でNPO法人として新たに発足しました。

15. 事務局体制について

東腎協は2003年1月29日、一橋ゼミナール新本社ビルより現在の信友大塚ビルに移転しました。駅に近くなったこともあって、会員の皆さまにより身近になったのではないかと思います。

さて、東腎協の事務局長として1983年から20年間東腎協の活動をリードしてきました森義昭事務局長が、4月18日の第32回総会をもって退職することになりました。

事務局体制の再構築が急務となっています。

財政対策では、会員減が大きく響いています。透析導入患者平均年齢は64歳を超え、原疾患も糖尿病が多くなり、重症化も進んでいます。今後全国組織の一部で行われている家族会員の獲得なども検討する必要があります。

主に都庁各局、都議会各党への要請活動と東京都からの委託事業として年間8回の難病無料医療相談会と日常の電話相談も受けています。

また、今年、国が福祉の充実を念頭に各都道府県に難病医療相談支援センターを設置する方針が出され、東京での本事業開設に当り東難連は7月、都と第1回目の会談を持ち、本事業の運営、内容について話し合い、さらに9月26日2回目の会合で内容の充実を要望しました。東腎協からは田中常任幹事が副理事長として参加しています。なお、10月19日は小金井福祉会館で腎臓病無料医療相談会を行いました。相談医には日本医科大、飯野靖彦教授、松信精一先生、柏木哲也先生に協力をお願いしました。

(2) 東京 無年金障害者をなくす会

2001年7月5日、学生無年金障害者38人が、9つの地方裁判所に提訴して以来2年6カ月が経過しました。東腎協は、無年金障害者をなくす会の一員として、積極的に裁判を支援してきました。

会員の皆さんの中にも障害基礎年金を受けられない方が多く実在していますが、また、家族が障害者でありながら、障害基礎年金が受けられず、生活に苦勞している人もいます。

無年金障害者をなくす活動は法の平等からみて、当然の行為として展開してきました。しかし、思うような結果を得られず、社会保険審査会に審査請求をし、さらに裁判での決着を受けるべく提訴を決定しました。

現在9つの地裁で公判が行われていますが、東京地裁の進行が他の地裁公判より早く、1月28日の後半で結審することになりました。判決公判は、3月ないし4月に開かれる予定です。長い支援活動でしたが、私達の無年金障害者をなくす活動は、これからが始まりの第一歩となります。

公判が開かれるたびに報告集会を開き、弁護団より詳細な説明と次回公判の準備書面についての報告を受けてきました。また、全国連絡協議会をつくり弁護団会議、支援者会議等再三開催し、裁判の方向とその対応の仕方、さらに支援拡大の対策等を話し合ってきた

した。

東京・無年金障害者をなくす会としても、事務局・役員が常時各種団体にもオルグし、支援要請を行いチラシ、新聞、署名等の活動を展開してきました。

三、終わりに

今年度は以上の活動を行ってきました。組織的には患者の高齢化・重症化など、会員拡大が非常に困難な時代を迎えています。また従来の活動家の透析の長期化などで患者会活動が困難となつて会の維持ができず、やむなく休会を余儀なくされる会の出現も無視できません。

今年度は榎原会長の就任をはじめ、執行部の顔ぶれも大きく変わりました。比較的に活動歴の浅い役員が中心となりました。

これまでの32年の貴重な経験を踏まえ、患者の多様なニーズを捉え、今後さらに、新たな活動を見出していくことが期待されます。

2年前の透析時間制の廃止や給食加算の廃止など、透析医療費の圧縮による患者への影響はさらに

1月20日には立川駅前で街頭宣伝を行い、チラシ、書名、募金等の活動を実施し、1月28日には全国決起集会を東京弁護士会館で開き、集まった署名を地裁に提出しました。

大きくなってきました。私たちは、全国の仲間とともに医療と生活を守る活動を活発にする必要があります。同時に、現実的には医療施設側との話し合いを進め、現在の医療体制の中でも納得のできる医療を求めていく必要があります。そのためには透析医療の内容や、医療体制の学習も進めていく必要があります。

厳しい環境の中で、私たちの活動は、新たな成果を見出すことはなかなか困難です。粘り強く声を出しつづけるこそ最大の活動です。ともに頑張りましょう。

二〇〇三年度主な活動記録

2003年3月

- 2 北部ブロック学習交流会
多摩部、青梅線沿線交流会
第272回常任幹事会
『全腎協』No.196発送
10 秀島病院名誉院長と事務長来
局対応
13 会員拡大で秀島病院訪問
14 会計監査
15 全腎協総会出席
16 東京都障害者連絡協議会、東
京の保健・衛生・医療を充実
させる連絡会「都立病院改革
実行プログラム説明会」出席
23 第50回幹事会開催
27 第32次国会署名請願行動
29 会計監査
2 板橋中央総合病院打合せ
3 障都連市橋さん、都議会議員
大山とも子さん来局対応

2003年4月

- 4 『東腎協』No.147発送
6 第273回常任幹事会
11 全腎協災害対策検討委員会打
合せ
14 東京都障害者団体連絡協議会
出席
20 第31回総会開催
24 第1回全腎協災害対策委員会
出席
27 三役会議、新小岩クリニッ
ク
28 総会出席
29 板橋中央病院責任者黒田氏と
交渉
3 東難連運営委員会
4 新常任幹事説明会
7 都庁各局会長就任挨拶
11 『全腎協』No.197発送
14 第274回常任幹事会
16 学生無年金裁判傍聴
谷中三和クリニッ、秋葉原
腎クリニック訪問

2003年5月

- 17 全腎協総会出席
18 全腎協山口大会会員交流
会出席、障都連第30回総会出
席
24 日本腎臓学会公開市民講座出
席
25 青年部バス旅行
27 無年金障害者をなくす東京の
会、役員・事務局会議出席
30 『東腎協』No.148発送
1 サイコネフロジー研究会
2 JPC国会請願参加
3 国立メディカルクリニック小
山事務長来局
4 無年金議員連盟との懇談会
7 新宿の医療を考える集い
8 都庁要請レクチャー、全難連
総会出席
11 調布東山クリニック訪問
2004年度都予算要請行動
出席依頼に各局を訪問

2003年6月

- 12 無年金裁判傍聴
15 第275回常任幹事会
17 編集委員会、災害対策委員会
ブロック長会議
19 無年金役員会出席
17 全腎協第2回災害対策委員会
出席
21 東部ブロック常任幹事会議
国立メディカルクリニック
訪問
22 中南部役員会、患者会サポー
ト、組織対策、ブロック長合
同会議
24 2004年度東京都予算要請
「東腎協ニュース」No.1発行
25 全腎協理事会出席
28 NPO東難連第一回総会
29 臓移連の大久保、鈴木両氏と
全腎協の栗原氏来訪
3 無年金障害者をなくす会役員
会
4 『全腎協』No.198発送作業
5 全腎協代表者会議
6 無年金障害者をなくす会総会、
東難連理事会、運営委員会
9 大和病院訪問
11 地域腎友会実行委員会
12 関東ブロック山梨大会

2003年7月

- 15 都立大久保病院を存続させる
会・都知事への要請署名提出
決起集会参加、
20 第276回常任幹事会、
災害対策委員会、NPO検討
委員会
23 東京都病院経営本部行動
計画に対する要請行動参加
26、27 全腎協理事會
27 中南部幹事会、板中腎友会訪
問、町屋駅前クリニック訪、
多摩部（立川・国分寺地域）
幹事会、北部幹事会
秀島病院訪問
29 健康局伊藤さんと面談、都庁
訪問
31 井口病院中川事務長来局
幹事会・学習交流会実行委員
会

2003年8月

- 10 後のアンケート、臓器移植に
かかる申請の整理
NPO検討委員会、編集委員
会、臓器移植キャンペーン実
行委員会
11 東京都各政党事務所挨拶
「全腎協」No.198声の会報
12 秀島病院、吉祥寺駅前クリニ
ック訪問
18 都議会民主党、共産党、訪問
会員拡大、組織対策、患者会
サポーター、ブロック長三者合
同委員会、東部ブロック患者
会役員交流会
20 臓器移植の普及に関わる請願
署名集計、大井小川クリニッ
ク会結成の件で訪問
24 東京都健康局へ協定書提出、
変更届
28 障害年金改正をすすめる会2
003年度総会出席
31 全腎協青年交流会 in 北海道
出席
多摩部学習交流会講演会
2003年9月
1 「東腎協ニュース」No.3発行
2 無年金役員会出席
3 世田谷区障害者福祉団体連絡
協議会入会申込書作成

- 5 「全腎協」No.199号発送
6 東難連理事會出席
6、7 全腎協理事會
9 大山とも子共産党都議会議員
来局対応
11 幹事会・学習交流会実行委員
会
12 駒沢腎クリニック訪問、秀島
病院、吉祥寺駅前クリニック
訪問
13、14 関東ブロック青年交流会
第277回常任幹事会
編集委員会、災害対策委員会、
患者会サポーター委員会
16 東京都産業労働局島村さんバ
ンフレット持参対応
21 東京・無年金をなくす会役員
会出席
24 練馬桜台クリニック訪問
相談役会開催
28 全腎協・中外製薬共催第3回
市民シンポジウム参加
24 優人クリニック訪問
第51回幹事会開催
2003年10月
2 都健康局医療サービス部疾病
対策課献血移植係伊藤さん来
局上野公園使用許可書持参
5 臓器移植キャンペーン実施

- 7 東京都議会自民党山加未美議
員に紹介面談、自民党ヒアリ
ング準備
8 豊島区役所及びNTTセンタ
ー災害対策資料収集のため訪
問
10 東難連都議会各党ヒアリング
第278回常任幹事会
12 東京都各政党（民主、公明、
共産、市民ネットワーク）予
算ヒアリング
14 都議会自民党ヒアリング出席
15 無年金役員会
16、18、19 全腎協総会出席
19 東難連腎臓病無料医療相談会、
中南部会員交流会
22 「東腎協ニュース」No.4発送
26 「腎臓病を考える都民の集い」
実行委員会、「苦情が医療を
変える（2）」出席
31 「東腎協」No.150発送
2003年11月
1、2 全腎協通院介護支援事業
交流会
2 中南部バス旅行
5 優人クリニック訪問
7 「全腎協」No.200発送
8 実態調査打ち合わせ
萬有製薬「腎臓病とともに」

- 出席
第279回常任幹事会
編集委員会、腎臓病を考える
都民の集い実行委員会
世田谷区障害者福祉団体連絡
協議会定例会議出席
関東ブロック会議実行委員会
東海病院ひまわり会訪問
厚生労働省、財務省宛、診療
報酬改定要望書作成
「東腎協」号外発送、厚労省保
険局医療課及び財務省主計局
宛「透析に関わる診療報酬改
訂へ向けて」お願い文発送
運営委員会
東京・無年金障害者をなくす
会
診療報酬改定に向けたハガキ
要請運動案内状作成
北部学習会
都民の集い実行委員会
関東ブロック会議実行委員会

2003年12月

- 理事・幹事宛診療報酬につい
ての要望書発送
厚生労働省宛透析に関する診
療報酬復活要請ハガキ運動お
願い文発送
第3回運営委員会
第4回運営委員会
「全腎協」No201発送
無年金役員会出席
小川副会長逝去の報あり
「東腎協ニュース」No5発送
「腎臓病を考える都民の集い」
開催
無年金者をなくす会役員会
「東腎協」No151発送
相談役会
無年金障害者をなくす会立川
駅前でピラ配り
東部ブロック交流会
財政検討委員会
故原三代吉相談役の通夜に列
席
障都連都民集会・無年金問題
分科会打合せ
駒込共立クリニック赤堀事務
長、河野氏来局

2004年2月

2004年1月

- 障都連都民集会
第281回常任幹事会開催、
JPC患者・家族集会参加
精神無年金学生障害者裁判傍
聴役員会出席、
新潟エコライスの件で出張
「障害者と災害時の情報保障
みんなで作ろう災害マニユ
アル」出席
青年部ボウリング大会
都庁各局訪問
実態調査票梱包・発送作業
個人会員交流会開催

2003年度収支計算書

自2003年3月1日～至2004年2月29日

I. 収入の部

(単位: 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
1.会費収入	38,340,000	36,391,110	1,948,890	上期 6,682人 下期 6,757人
2.寄付金収入	800,000	1,671,769	△ 871,769	新小岩クリ・秋葉原腎クリご遺族様、鶴田クリニック他
3.募金収入	3,400,000	3,141,847	258,153	
4.協賛金収入	0	0	0	
5.事業収入	1,960,000	1,850,135	109,865	
①会報等頒布収入	0	94,000	△ 94,000	調布東山クリニック腎友会・全腎協70冊
②広告収入	1,380,000	1,348,000	32,000	『東腎協』広告掲載料
③物品販売収入	500,000	290,800	209,200	30周年記念ビデオ・あゆみ、緊急時透析患者手帳
④資料印刷代収入	80,000	117,335	△ 37,335	
6.預金利子	50,000	32,712	17,288	
7.雑収入	0	120,407	△ 120,407	傷害保険精算金、全腎協体重計還元金他
8.特別会計繰入	0	0	0	
合 計(A)	44,550,000	43,207,980	1,451,885	
源泉預り金、前受け金	0	67,493	△ 67,493	
前期繰越収支差額	22,665,803	22,665,803	0	
収入合計(B)	67,215,803	65,941,276	1,394,392	

Ⅱ. 支出の部

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
事業費				
1.腎疾患対策事業費	2,600,000	2,587,992	12,008	全腎協納付金、都民の集い報告集の発行費
2.腎移植推進事業費	800,000	851,208	△ 51,208	臓器移植推進キャンペーン費用
3.交流事業費	910,000	760,113	149,887	4ブロック交流会、個人交流会
4.青年部事業費	400,000	336,795	63,205	交流会補助
5.会報発行事業費	5,270,000	4,860,243	409,757	会報No.148～No.151発行費用
①印刷費	3,100,000	2,831,535	268,465	
②編集費	950,000	927,577	22,423	
③発送費	1,220,000	1,101,131	118,869	『ぜんじんきょう』『東腎協』送達費直送分
6.組織対策事業費	240,000	264,575	△ 24,575	入会のしおり、設立祝い金2件
7.災害対策事業費	150,000	25,980	124,020	会議費、アンケート送達費
8.メディア事業費	210,000	142,377	67,623	
①インターネット・HP維持費	150,000	129,075	20,925	メール接続料、HP仕様料・維持作業料
②声の会報	60,000	13,302	46,698	カセットテープ
9.会議費	3,150,000	3,389,737	△ 239,737	
①総会費	1,500,000	1,448,340	51,660	
②役員会費	700,000	654,662	45,338	幹事会・常任幹事会交通費、会場費
③全腎協関係費	750,000	1,050,136	△ 300,136	山口大会旅費補助・関東ブロック東京大会他
④その他会議費	200,000	236,599	△ 36,599	各委員会、実行委員会
10.事業分担金	13,142,000	12,249,640	892,360	
①全腎協分担金支出	12,780,000	12,096,000	684,000	
②東難連分担金支出	142,000	134,000	8,000	6700人分
③その他の分担金支出	220,000	19,640	200,360	障害者団体定期刊行物協会
11.事業行動費	1,500,000	1,479,232	20,768	
12.物品購入費	250,000	7,500	242,500	ガイドブック、全腎協あゆみ
13.実態調査費	2,000,000	447,807	1,552,193	アンケート用紙6,800冊、封筒6,500枚
事業費合計	30,622,000	27,403,199	3,218,801	
管理費				
1.人件費	9,261,780	8,791,950	469,830	
①給料	6,285,000	6,285,000	0	専従3名給料
②退職積立金	419,000	450,000	△ 31,000	
③アルバイト料	2,187,780	1,719,060	468,720	2名
④保険料	130,000	110,750	19,250	障害保険料
⑤通勤交通費	240,000	227,140	12,860	2名
2.管理経費	7,348,588	7,351,686	△ 3,098	
①事務所管理費	4,137,588	4,137,588	0	家賃
②光熱費・水道料金	300,000	333,070	△ 33,070	電気・水道代、
③通信費	1,000,000	1,356,220	△ 356,220	ヤマト便、電話、切手、はがき代
④備品費	751,000	364,140	386,860	印刷機、コピー機リース代
⑤事務用品費	150,000	110,184	39,816	パソコンカラーインク、感熱紙他
⑥新聞図書費	150,000	108,930	41,070	都政新報・社会保険の手引き
⑦印刷料	700,000	736,950	△ 36,950	バフオーマンズチャージャー、封筒他
⑧保険料	10,000	9,720	280	火災保険
⑨雑費	150,000	194,884	△ 44,884	故原副会長弔花、マット交換、ゴミ券他
管理費合計	16,610,368	16,143,636	466,732	
予備費	(1,000,000)		0	
	△ 1,000,000			
支出合計(C)	47,232,368	43,546,835	3,685,533	
収支差額(A)-(C)	△ 2,682,368	△ 338,855	2,233,645	
次期繰越収支差額(B)-(C)	19,983,435	22,394,441	△ 2,411,006	

正味財産増減計算書

自2003年3月1日～至2004年2月29日

(単位 円)

科 目	金 額		
I 増加の部			
1 資産増加額			
退職給与積立預金増加額	450,000		
保 証 金	1,515,600	1,965,600	
増加額合計			1,965,600
II 減少の部			
当期収支差額	1,176,745		
退職給与積立金増加額	450,000	1,626,745	
減少額合計			1,626,745
当期正味財産増加額			338,855
前期繰越正味財産額			26,036,793
期末正味財産合計額			26,375,648

貸借対照表

2004年2月29日現在

(単位 円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	22,394,441	
流動資産合計		22,394,441
2 固定資産		
退職給与積立預金	5,943,000	
什器備品	2,387,500	
電話加入権	145,600	
保証金	1,515,600	
固定資産合計		9,991,700
資 産 合 計		32,386,141
II 負債の部		
1 流動負債		
前受け金	48,600	
源泉預り金	18,893	
流動負債合計		67,493
2 固定負債		
退職給与積立金	5,943,000	
固定負債合計		5,943,000
負 債 合 計		6,010,493
3 正味財産の部		
正味財産		26,375,648
負債及び正味財産合計		32,386,141

財 産 目 録

2004年2月29日現在

	科 目	金 額		
資産の部	1. 流動資産			
	現金預金			
	現金	192,951		
	郵便振替	9,262,329		
	普通預金(東京三菱銀行)	5,439,161		
	定期預金(東京三菱銀行)	7,500,000		
	流動資産合計		22,394,441	
	2. 固定資産			
	退職給与積立金	5,943,000		
	(南大塚郵便局)			
負債の部	什器備品	2,387,500		
	電話加入権	145,600		
	保証金	1,515,600		
	固定資産合計		9,991,700	
	資 産 合 計			32,386,141
	1. 流動負債			
	前受金	48,600		
	源泉預り金	18,893		
	流動負債合計		67,493	
	2. 固定負債			
	退職給与積立金	5,943,000		
	固定負債合計		5,943,000	
	負 債 合 計			6,010,493
	正 味 財 産			26,375,648

備 品 等 一 覧

2004年2月29日現在

(単位 円)

購入日	品 名	金 額	備 考
1994.9.30	ワープロ リコーNT380	118,000	
1995.2.28	シュレッダー リコー2211PT	103,000	
1995.5.8	ノートPC DynaBook ss450	329,600	
1995.6.2	ワープロ リコーNV710	154,800	
1995.11.29	プリンター CANON LBP730	175,100	
1996.7.8	卓上型梱包記	290,000	
1999.1.20	NEC製 ファクシミリ	257,250	
	リコー製 印刷機	697,000	60ヶ月リース
2000.1.17	SHARP液晶カラーモニター	131,040	
2000.10.2	DELL製 PC Dimension4001	194,775	
2001.9.10	オートコレクター UC1000	249,950	
2002.5.13	ノートPC LATITUDE V710	203,280	
	DELL製 PC Dimension43008	180,705	
2002.7.26	リコー製複写機 Neo2	623,700	60ヶ月リース
	保証金		
	信友大塚ビル6階事務所 25.26坪	1,515,600	

2003年度会計監査報告書

私たち監査は、東京都腎臓病患者連絡協議会の2003年度の収支報告書、すなわち現金、銀行預金、元帳、現金出納帳等について監査し、その結果、すべての経理処理手続きは公正、妥当と認められました。

2004年3月23日

会計監査

佐藤行成 

同

瀬賀康平  印

二〇〇四(平成16)年度活動方針(案)

国や東京都は不況の長期化による
税収不足を原因とする緊縮財政
を強いられ、小さくなった予算枠
の中での配分を余儀なくされ、聖
域なき削減を断行してきたところ
です。国では診療報酬の引き下げ
を2002年に断行し(本年度も
引き下げを予定しているところ
で)東京都においては、2000
年に私たちが透析患者が助成による
自己負担無しの制度の大きな拠り
所としていた「心身障害者医療費
助成制度」(マル障)の改悪がな
され、一部自己負担が発生するとい
う、永年守られてきた掛け替え
のない制度の後退が現実となつて
しまいました。

この様に、年々厳しさを増す私
達の透析医療環境を今、しっかりと
と食い止める決意をしなければなら
りません。そのための訴求力をより
高める力として組織力の向上と
会員拡大を絶対的必要目標として、
真剣に継続して取り組むべき課題だ

と考えます。そして、会員一同が
価値観と危機感を共有し、一丸と
なれば大きなパワーに繋げること
ができる筈です。

また、東腎協の内に目を向けた
時、会員の高齢化や転院、脱会等
による会員の減少傾向に歯止めを
掛ける問題や各患者会内での種々
の問題発生への対応策等々の問題
解決には各ブロック単位での情報
交換やより親しい交流会により、
それを克服し、仲間意識を向上さ
せることが必要です。そして、お
互い励まし合い、助け合い、QOL
の向上を目指す事こそ、本来の
患者会存在意義であり、患者会の
大きな使命だと思います。また、
病院施設やスタッフの人達との信
頼関係確立は患者会活動の基本だ
と思います。

ようか。その患者会の集まりが東
腎協です。

東腎協は今年度大きなそして重
要な課題を抱えています。昨年度
より検討を進め、常任幹事会では
取得へ向けての方向性を打ち出し
たNPO法人(特定非営利活動法
人)の取得の是非は会員の皆様の
総意で決定されるべきでしょう。

このNPO法人の取得の方向決
定問題をはじめ、継続が重要な活
動を展開してその実現を目指す、
将来を展望できる新しい発想と方
向性のある活動を見出します。ま
た努力を惜しまず魅力ある東腎協
を目標に次の方針に基づき200
4年度の活動を進めていきます。

1. NPO法人(特定非営利活
動法人)取得に向け会員の理
解と合意を求めていきます。
2. 会員拡大活動を継続し、仲
間の輪を大きくしていきます。
3. 魅力ある新しい方向性を東
腎協は目指します。

(1) 時代の変化に応じた患者会
のあり方を見出す努力をしま
す。

(2) 社会に認知される行動を行
い、社会の人々に理解され周
知される行動を志します

(3) 社会貢献を目指した活動を
行っていくします。

4. 医療と福祉を守る全国的運
動は全腎協に協力し率先して
進めます。

5. 東京都と都議会への要望は
実現を目指し、重点的に行い
ます。

東京都の予算への要請活動の
歴史を顧みてその経過と成果
を慎重に評価した上で、この
機会に新たな要請活動の内容
や手法を模索しながら望み
や願いの実現を目指します。
注、(東京都予算への要望(各
局への要望事項)は後述)

6. 東難連をはじめ目指す目的
や要望が一致する他の団体と

ともに医療、福祉を守る運動を展開します。

7. 全腎協、臓移植等と連携し「臓移植」の普及推進運動を進めます。

8. 「臓移植意思表示カード」の普及推進については「健康保険証」に添付するなど有効な運動を進めます。

9. 透析施設との信頼関係を前提の要望事項として

(1) 患者会への正しい理解を深め、

よりよい、相互信頼を高め、

(2) 各施設の災害対策の確立を

(3) 感染防止、医療事故、医療ミス防止への努力を

(4) 医療スタッフの確保、充実への努力を

(5) 患者本位の治療を

10. 通院移送サービスの各地域単位での立上げを支援します。

11. 事務局体制、財政対策について基本的見直しを検討していきます。

12. 機関誌「東腎協」の定期発行を守り内容の検討と充実を計るとともに、会員の皆様の必要とする情報をタイムリー

に伝達するための「東腎協二ユース」を随時発行していきます。

13. 青年部の育成、充実を計り、青年層の会員拡大により東腎協の底辺の広がりにつなげます。

以上の活動方針のもと、会員の皆様のご理解とご協力を大きな力に活動を進めてまいります。

東京都各局への予算要請項目

「福祉保健局」

「旧健康局」

1. 糖尿病性腎症からの透析患者を増やさないため、糖尿病性腎症の知識普及や予防・管理体制を強化、推進してください。

2. 慢性腎炎患者からの透析導入への移行を少なくするため知識普及や予防管理体制を強化、推進して下さい。

3. 腎臓移植体制を強化し、特に腎臓移植の普及を推進して下さい。

4. 臓器移植推進のため、臓器

移植コーディネーターの増員を実現して下さい。

5. 透析施設間ネットワーク化や通院の確保など地震などの災害時における緊急透析治療体制を早急に確立して下さい。

6. 鳥しょにおける透析は、看護師・臨床工学技士などの医療スタッフの確保を図るとともに診療内容を充実させて下さい。

7. 乳幼児をはじめとする児童、生徒、学生、勤労者、家庭婦人、自営業者などに対する検尿を完全実施し、受診率の向上に努め、その後の管理体制を確立して下さい。

8. 看護師や臨床工学技士などの医療スタッフの増員・確保をして下さい。

9. 透析施設内における感染防止策・医療事故防止策の指導を徹底させて下さい。

10. 透析施設に対し、患者本位の治療に努めるよう指導して下さい。

11. 医療費助成制度等の継続を堅持して下さい。

12. 日曜日、夜間の病変、救急、緊急時に対応できる透析施設

を確保してください。

「旧福祉局」

1. 心身障害者医療費助成制度を堅持、継続し、老人保健法に準拠している患者負担の見直しを検討して下さい。

2. 心身障害者福祉手当の支給要件を改正前に戻して下さい。

3. 「福祉の町づくり」は順調に進行していますが、その計画がより着実に進むよう予算の確保に努力して下さい。

4. 要介護透析患者や合併症を持った透析患者のより進んだ対策を進めて下さい。

5. 介護保険制度で透析患者の移送サービスを実施して下さい。

6. 障害者、難病患者に対する

6. 障害者の無料乗車券の発行を要望して下さい。

6. 江東高齢者医療センターは高齢者透析患者のための透析室を拡充、充実させて下さい。

7. 老人医療センター内に高齢者腎不全センターを設置して下さい。

注・2004年度より健康局と福祉局は合併され「福祉保健局」と

いう名称になる予定である。しかしながら予算要請については、2箇所に要望させていただくことになるが、部課名が決定していないため、現時点では旧局名を使用した。

〈病院経営本部〉

1. 都立病院の統廃合、地域病院化、公社化、民営化の方針の再考をし、東京都の直営を守り通して下さい。

2. 腎医療を東京都の行政医療として位置付けし、すべての都立病院に腎外来を設置し外来透析及び夜間透析を実施して下さい。

3. 大久保病院は腎不全センターの機能を堅持し、合併症、特に整形外科系の合併症に対応できるように充実して下さい。

4. 豊島病院の今後の方角如何に関わらず糖尿病からの透析治療を中心とした腎不全センターの設置をして下さい。

5. 府中病院については、透析室を拡充、充実させて下さい。
6. 感染防止、医療事故防止の指導を強化して下さい。

7. 患者本位の治療の徹底を指

導して下さい。

8. 看護師や臨床工学技士などの医療スタッフを確保して下さい。

〈教育庁〉

1. 学校検尿による腎臓病の早期発見と予防、管理を徹底して下さい。

〈総務局〉

1. 東京都職員の障害者雇用率のアップと人工透析患者を東京都職員に採用して下さい。

2. 地震災害に備え近隣県との「透析ネットワーク」を構築し「患者移送体制」と「緊急透析治療体制」を早急に確立して下さい。

〈産業労働局〉

1. 腎臓機能障害者の雇用促進を東京労働局に働きかけて下さい。

2. 透析患者や障害者の就業者の中に「モラルハラスメント」を受け、うつ病にかかり、休職、退職に追い込まれるケースがありますが、その実態調査ならびに救済処置のご検

討をお願いします。

2004年度収支予算(案)

自2004年3月1日～至2005年2月28日

I. 収入の部

(単位円)

科 目	03年度予算額	03年度実績額	04年度予算額	備 考
1.会費収入	38,340,000	36,391,110	37,260,000	04年度 6,900人×5,400円
2.寄付金収入	800,000	1,671,769	700,000	鶴田クリニック、扶桑薬品他
3.募金収入	3,400,000	3,141,847	3,000,000	第34次(04年度)国会請願募金
4.協賛金収入	-	0	0	
5.事業収入	1,960,000	1,850,135	1,500,000	
①会報等頒布収入		94,000	100,000	
②広告収入	1,380,000	1,348,000	1,250,000	
③物品販売収入	500,000	290,800	70,000	全腎協取扱い品還元金
④資料印刷代収入	80,000	117,335	80,000	
6.預金利子	50,000	32,712	3,000	
7.雑収入	0	120,407	100,000	
当期合計(A)	44,550,000	43,207,980	42,563,000	
源泉預り金、前受け金		67,493	0	
前期繰越収支差額	22,665,803	22,665,803	22,394,441	
収入合計(B)	67,215,803	65,941,276	64,957,441	

Ⅱ. 支出の部

(単位 円)

科 目	03年度予算額	03年度実績額	04年度予算額	備 考
事業費				
1.腎疾患対策事業費	2,600,000	2,587,992	2,500,000	全腎協納付金、都民の集い経費
2.腎移植推進事業費	800,000	851,208	800,000	腎キャンペーン経費
3.交流事業費	910,000	760,113	800,000	ブロック、学習、地域等交流会
4.青年部事業費	400,000	336,795	400,000	
5.会報発行事業費	5,270,000	4,860,243	4,450,000	
①印刷費	3,100,000	2,831,535	2,800,000	4回分A4版4色、8,000部
②編集費	950,000	927,577	450,000	
③発送費	1,220,000	1,101,131	1,200,000	全腎協含む
6.組織対策事業費	240,000	264,575	300,000	結成祝金3万、会議費
7.災害対策事業費	150,000	25,980	50,000	会議費、関東ブロック
8.メディア事業費	210,000	142,377	220,000	
①インターネット・HP維持費	150,000	129,075	200,000	ホームページ使用料
②声の会報	60,000	13,302	20,000	カセットテープ代
9.会議費	3,150,000	3,389,737	2,900,000	
①総会費	1,500,000	1,448,340	1,500,000	会場費、議案書、講師謝礼他
②役員会費	700,000	654,662	700,000	常任、幹事会、幹事会
③全腎協関係費	750,000	1,050,136	500,000	関東ブロック、全腎協大会等
④その他会議費	200,000	236,599	200,000	各委員会他
10.事業分担金	13,142,000	12,249,640	12,574,000	
①全腎協分担金支出	12,780,000	12,096,000	12,420,000	分担金6,900人×1,800円
②東郷連分担金支出	142,000	134,000	134,000	6700人×20円
③その他の分担金支出	220,000	19,640	20,000	確定協
11.事業行動費	1,500,000	1,479,232	1,500,000	役員活動費
12.物品購入費	250,000	7,500	50,000	
13.実態調査費	2,000,000	447,807	1,500,000	集計、報告書
事業費合計	30,622,000	27,403,199	28,044,000	
管理費				
1.人件費	9,261,780	8,791,950	8,890,170	
①給料	6,285,000	6,285,000	6,067,000	専従3人分
②退職積立金	419,000	450,000	228,000	専従2人分
③アルバイト料	2,187,780	1,719,060	2,145,170	2名分
④保険料	130,000	110,750	150,000	傷害保険
⑤通勤交通費	240,000	227,140	300,000	専従3人分
2.管理経費	7,348,588	7,351,686	7,317,588	
①事務所管理費	4,137,588	4,137,588	4,137,588	賃料、共益費 344,799円
②光熱費・水道料金	300,000	333,070	350,000	
③通信費	1,000,000	1,356,220	1,300,000	電話、切手、メール便、小包等
④備品費	751,000	364,140	370,000	印刷機・コピー機リース代、CP2台
⑤事務用品費	150,000	110,184	100,000	
⑥新聞図書費	150,000	108,930	100,000	都政新報、新日本法規出版
⑦印刷料	700,000	736,950	800,000	封筒、印刷用紙
⑧保険料	10,000	9,720	10,000	火災保険
⑨雑費	150,000	194,884	150,000	
管理費合計	16,610,368	16,143,636	16,207,758	
予備費	1,000,000	0	0	
当期支出合計(C)	48,232,368	43,546,835	44,251,758	
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,682,368	△ 338,855	△ 1,688,758	
次期繰越収支差額(B)-(C)	18,983,435	22,394,441	20,705,683	

2004年度役員候補者名簿

04.03.23現在

No.	役職名	氏名	会名	備考
1	会長	榊原 靖夫	高中腎友会	○
2	副会長	軽部 和之	すながわ相互・患者会いずみ	○
3	副会長	藤原 実	嬉泉病院ニーレ友の会	○
4	事務局次長 (事務局次長代行)	木村 妙子	上野しのばず会	○
5	事務局次長	小関 盛通	柳原健腎会	○
6	会計	井上 寧枝	吉祥寺あさひ腎友会	○
7	常任幹事	朝日 美保	個人会員	○
8	常任幹事	阿部 敏弘	吉祥寺あさひ腎友会	○
9	常任幹事	生井 克子	阿佐谷すすき腎友会	○
10	常任幹事	一川 和夫	あけぼの友の会	○
13	常任幹事	井上 信義	虎の門・高津会	○新
14	常任幹事	押山 大作	にこたま会	○
15	常任幹事	小野 協子	東海病院ひまわり会	○
16	常任幹事	大畑 ハナ	新小岩クリニック友の会	○新
17	常任幹事	木下 久吉	笹塚愛生クリニック友の会	○
18	常任幹事	久保 正業	松和患者会新宿南口支部	○
19	常任幹事	小林 敦	町屋駅前クリニック腎友会	○新
20	常任幹事	佐藤 歳夫	御徒町腎クリニック友の会	○新
21	常任幹事	澤田 載子	代々木病院腎友会	○
22	常任幹事	白土 光一	鶴田クリニック友の会	○
23	常任幹事	曾根 啓之	昭島腎クリニックひまわり会	○新
24	常任幹事	田中 助成	聖路加ニーレ会	○
25	常任幹事	東野 榮夫	あけぼの友の会	○
26	常任幹事	戸倉 振一	森山病院友の会	○
27	常任幹事	富山 光子	嬉泉病院ニーレ友の会	○
28	常任幹事	野口 美津枝	あけぼの友の会	○
29	常任幹事	蛭田 範博	新小岩クリニック友の会	○
30	常任幹事	吉田 芳子	南大沢パオレ腎友会	○
1	相談役	糸賀 久夫	松和患者会新宿南口支部	
2	相談役	一ノ清 明	虎の門・高津会	
3	相談役	小泉 左内	杏林腎友会	
4	相談役	高橋 勇二郎	田端駅前クリニックグループ	
5	相談役	堀 和正	高中腎友会	
6	相談役	柳 光夫	小豆沢病院腎友会	
7	相談役	森 義昭	虎の門・高津会	
1	会計監査	瀬賀 康平	三鷹北口クリニック腎友会	
2	会計監査	大場 邦子	嬉泉病院ニーレ友の会	

No.	役職名	氏 名	会 名	備 考
1	幹事	安藤 巴	愛和腎友会	
2	幹事	小椋 徳智子	青山会	
3	幹事	島貴 克利	赤羽中央病院腎センター腎友会	○
4	幹事	宮本 保	昭島腎クリニックひまわり会	○
5	幹事	丸山 昇	秋葉原腎クリニック腎友会	
6	幹事	稲見 計彦	あけぼのクリニック友の会	○
7	幹事	及川 一俊	あけぼの友の会	○新
8	幹事	上垣 保朗	阿佐谷すすき腎友会	○
9	幹事	西村 竹俊	小豆沢病院透析友の会	○
10	幹事	安形 晃一	飯田橋クリニック腎友会	○新
11	幹事	渡辺 峰男	井口腎友会	
12	幹事	黒田 文夫	板中腎友会	○新会
13	幹事	笹沼 忠	板橋駅前板友会	
14	幹事	岡部 軍治	稲城市立病院腎友会	
15	幹事	大久保 明雄	今尾医院腎友会	
16	幹事	杉浦 健祐	入谷クリニック腎友会	
17	幹事	清水 正平	御徒町腎クリニック友の会	
18	幹事	吉岡 ひろみ	上野しのばす会	○
19	幹事	中嶋 仁司	大島腎友会	○
20	幹事	蒲原 栄子	大森東クリニック腎友会	○
21	幹事	岡崎 保寛	大山腎友会	○新
22	幹事	川島 行雄	小笠原クリニック友の会	○
23	幹事	松山 清	小作クリニック	
24	幹事	高橋 勝則	織本病院腎友会	○
25	幹事	荒巻 好美	菊川橋クリニック腎友会	
26	幹事	高田 照男	嬉泉病院ニール友の会	○
27	幹事	古田 悦男	北多摩病院腎友会	
28	幹事	木村 せい	北病院腎友会	○新
29	幹事	峰岸 君子	吉祥寺あさひ腎友会	○
30	幹事	長坂 希望	境南クリニック患者会	
31	幹事	山田 陽子	貴友会王子病院友の会	○新
32	幹事	伊藤 保雄	杏林腎友会	
33	幹事	松崎 正義	くにたち桜会	○
34	幹事	高橋 国一	桑の実会	○
35	幹事	中脇 賢蔵	薫風園腎友会	
36	幹事	森田 京子	小池内科患者会小池会	○
37	幹事	金井 信憲	江東橋腎友会	
38	幹事	中島 常治	国分寺こやま腎友会	○新
39	幹事	鈴木 和雄	国分寺南口クリニック親光会	
40	幹事	中村 治兵衛	東京健生病院サボテン会	○
41	幹事	小野 良雄	笹塚愛生クリニック友の会	○
42	幹事	杉本 五男	三軒茶屋病院腎友会	○新
43	幹事	中村 敏邦	十条腎和会	○
44	幹事	永森 美智子	松和患者会新宿南口支部	
45	幹事	田中 克人	松和患者会西新宿支部	○
46	幹事	青木 良子	松和患者会カトリア支部	○新
47	幹事	安部 克明	新小岩クリニック友の会	○

No.	役職名	氏 名	会 名	備 考
48	幹事	清水 国衛	新宿水明クリニック腎友会	○
49	幹事	加藤 明	新松山病院友の会	
50	幹事	関口 礼子	腎研友の会	○
51	幹事	猪瀬 恵美子	すずらん腎友会	
52	幹事	高山 衛士	NPO腎臓病協議会すずらんの会	○
53	幹事	佐藤 真佐子	すながわ相互・患者会いずみ	○
54	幹事	田中 美由紀	聖蹟さくら会	○新
55	幹事	永田 実	聖路加ニーレ会	○
56	幹事	柳澤 政義	成和腎クリニック友の会	○新
57	幹事	中島 信夫	高尾もみじ会	○
58	幹事	三河 勝実	高中腎友会	○新
59	幹事	隅田 一巳	高松病院患者会	
60	幹事	関口 貞雄	竹口病院腎友会	
61	幹事	中村 文子	立川北口駅前腎友会	○
62	幹事	徳永 功	立川相互診療所希望会	○新
63	幹事	海野 尚志	立花クリニック友の会	○
64	幹事	石井 元浩	調布病院腎友会	
65	幹事	渡邊 靖	調布東山クリニック腎友会	
66	幹事	岩橋 勝子	鶴田クリニック友の会	
67	幹事	猪狩 奈美枝	帝京大学病院腎友会	○
68	幹事	花岡 洋子	天神橋クリニック腎友会	
69	幹事	渡辺 精二	東海病院ひまわり会	○
70	幹事	会沢 常謙	東京共済病院腎友会	
71	幹事	舟木 茂	東京厚生年金病院腎友会	
72	幹事	岩崎 誠	東和病院腎友会	○新
73	幹事	高崎 豊彦	虎の門・高津会	○
74	幹事	篠原 栄一	中野クリニック腎友会	
75	幹事	北川 有利子	長久保クリニック腎友会	
76	幹事	小川 和枝	永山腎友会	
77	幹事	高橋 春児	にこたま会	○
78	幹事	渡辺 正一	西口21友の会	
79	幹事	小野崎 勝	練馬・桜台クリニック患者会	○新会
80	幹事	中島 良明	長谷川病院腎友会	
81	幹事	遠藤 洋一	羽村相互診療所たんぼぼの会	
82	幹事	清水 泰一	東高円寺フェニックス会	
83	幹事	小川 正人	聖橋クリニック腎友会	
84	幹事	花澤 弘	深川橋クリニック腎友会	○
85	幹事	井上 邦男	福生病院こでまり会	
86	幹事	尾崎 治行	府中けやき会	
87	幹事	石山 久美子	豊生会	○新
88	幹事	矢沢 輝之	望星田無友の会	○
89	幹事	新井 静雄	町谷原クリニック腎友会	
90	幹事	大澤 富雄	松村クリニックすみれ会	
91	幹事	藤田 亮一	みさと健腎会	
92	幹事	多田 可子	瑞江腎クリニック腎友会	
93	幹事	瀬賀 康平	三鷹北口クリニック腎友会	
94	幹事	野崎 順子	南大沢パオレ腎友会	○

No.	役職名	氏 名	会 名	備 考
95	幹事	大野 幸子	南千住病院河童会	○
96	幹事	小堀 明人	南多摩病院のぼら会	
97	幹事	森 善哉	武蔵境駅前クリニック腎友会	○
98	幹事	田島 伸介	村上医院ひまわり会	
99	幹事	宗像 聡之	森山病院友の会	○
100	幹事	青木 智子	太和病院透析友の会	
101	幹事	腎友会	谷中三和クリニック腎友会	
102	幹事	田口 一郎	柳原健腎会	○
103	幹事	芝本 博克	山田クリニック	○
104	幹事	北爪 勇	湯島腎友会	
105	幹事	今 貞雄	代々木病院腎友会	○新
1	サテライトリーダー	道岡 勝人	人工腎臓虎の門・高津会	
2	サテライトリーダー	菅原 八重	代々木病院腎友会	
1	グループリーダー	大川 博子	青梅市立病院	
2	グループリーダー	原田 幸枝	河北グループ	
3	グループリーダー	小佐野 長吉	全生園患者会	
4	グループリーダー	森 朋美	相武台ニールンクリニック	
5	グループリーダー	磯崎 英世	月島サマリア病院	
6	グループリーダー	高橋 勇二郎	田端駅前クリニックグループ	○
7	グループリーダー	久保田 由美子	東葛クリニック小岩	
8	グループリーダー	石井・武田	西クリニック(武田G)	
9	グループリーダー	島田 孝司	東村山診療所	
10	グループリーダー	原田	秀島病院グループ	
11	グループリーダー	宮 智美	町屋駅前クリニック腎友会	
12	グループリーダー	大塚 栄子	八木内科	
13	グループリーダー	佐藤 ムツ子	吉沢グループ	

第33次国会請願署名・募金集計表

2004.03.23最終

No.	会 名	全腎協	JPC	募金	No.	会 名	全腎協	JPC	募金
1	愛和腎友会	920	920	26,000	64	調布病院腎友会	100	100	6,720
2	青山会	20	20	2,000	65	鶴田クリニック友の会	352	360	25,000
3	赤羽中央病院腎友会	199	137	18,149	66	帝京大学病院腎友会	132	132	28,000
4	昭島腎クリニック友の会	881	861	96,018	67	天神橋クリニック友の会	485	497	64,800
5	秋葉原腎クリニック友の会	18	18		68	東海病院ひまわり会	481	394	7,000
6	あけぼのクリニック友の会	568	580	23,000	69	東京共済病院友の会	80	80	3,000
7	あけぼの友の会	925	902	54,000	70	東京厚生年金病院サボラジ会	570	560	22,600
8	阿佐谷すずき腎友会	368	358	49,500	71	東京厚生年金病院腎友会	24	17	500
9	小豆沢病院透析友の会	60	50	3,000	72	東和病院腎友会	317	291	16,200
10	飯田橋クリニック友の会	237	299		73	虎の門・高津会	824	845	74,880
11	井口腎友会	534	492	26,500	74	長久保クリニック友の会	528	526	30,000
12	板中腎友会				75	中野クリニック友の会	200	200	24,000
13	板橋駅前板友会	95	90	34,400	76	永山腎友会	50	50	6,000
14	稲城市立病院腎友会	69	70	8,400	77	にこたま会	330	320	19,800
15	今尾医院腎友会	225	211	23,400	78	西口21友の会			
16	入谷クリニック友の会	152	157	23,000	79	長谷川病院腎友会			
17	上野のばす会	400	360	69,700	80	桑の実会	901	900	63,300
18	大島腎友会	301	311	16,440	81	羽村相互診療所たんぽぽの会			
19	大森東クリニック友の会	592	534	27,300	82	東高門クリニック友の会	742	749	28,200
20	大山腎友会	83	83		83	聖橋クリニック友の会	427	428	72,900
21	御徒町腎クリニック友の会	121	116	27,000	84	深川橋クリニック友の会	628	628	43,140
22	小笠原クリニック友の会	576	556	34,800	85	府中けやき会	430	436	42,450
23	小作クリニック友の会				86	福生病院こども会	351	332	28,200
24	織本病院腎友会	357	350	51,120	87	豊生会	841	831	38,400
25	菊川橋クリニック友の会	450	399	51,000	88	望星田無友の会	544	547	27,900
26	麹泉病院ニール友の会	2,744	2,711	124,980	89	町谷原クリニック友の会			
27	北多摩病院腎友会	58	58	4,240	90	松村クリニック友の会	130	130	11,250
28	北病院腎友会	128	112		91	みさと健腎会			
29	吉祥寺あさひ腎友会	522	493	68,400	92	瑞江腎クリニック友の会	297	177	24,000
30	貴友会王子病院友の会	131	133	20,000	93	三鷹北口クリニック友の会	204	199	11,200

31	境南クリニック患者会	96	76	9,180	94 南大沢バシ腎友会	233	263	20,010
32	杏林腎友会	260	290	21,000	95 南千住病院河童会	26	26	7,700
33	くにたち校会	360	314	22,800	96 南多摩病院のぼら会	857	740	64,860
34	薫風園腎友会	36	40	2,000	97 武蔵境駅前クリニック腎友会	299	249	26,000
35	小池内科患者会小池会	95	92	5,400	98 村上医院ひまわり会	300	278	26,000
36	江東橋腎友会	384	383	16,080	99 森山病院友の会	2,560	2,550	163,440
37	国分寺こやま腎友会	721	684	24,240	100 寺中三和クリニック腎友会	103	104	19,600
38	国分寺南口クリニック親光会			16,200	101 柳原健腎会	201	150	27,300
39	幸町腎友会	90	80	5,400	102 山田クリニック腎友会	170	170	
40	笹塚愛生クリニック友の会	30	30	4,200	103 天和病院透析友の会			
41	三軒茶屋病院腎友会	510	510	35,000	104 湯島腎友会	747	730	61,380
42	十条腎友会	445	436	3,600	105 代々木病院腎友会			
43	松和患者会西新宿支部	375	373	28,300				
44	松和患者会新宿南口支部	321	316	19,320	患者会合計	38,980	37,402	2,746,257
45	腎研友の会	464	435	16,800	1 青柳市立病院	377	359	12,000
46	新小岩クリニック友の会	2,365	1,852	104,000	2 相武台ニールンクリニック	44	55	2,000
47	新宿永明クリニック腎友会	107	107	15,000	3 東京女子医大田端グループ	20	10	3,000
48	新松山病院友の会	308	296	33,000	4 東葛クリニック小岩	40	40	
49	新緑池袋カトリック支部	342	327	19,200	5 西クリニック(武田G)	731	733	85,100
50	腎臓病協議会すずらん会	382	372	12,000	6 東村山診療所	40	40	
51	すずらん腎友会			49,880	7 町屋駅前クリニック	231	228	35,580
52	すなわね相互診療所患者会いすみ	532	513	21,000	8 ハ本内科			
53	聖蹟さくら会	269	263	15,000	9 全生園患者会	2	2	1,000
54	成和腎友会(西新井)	372	352	35,500	10 月島サマリヤ病院			
55	聖路加ニール会	291	307	10,000	11 河北グループ	41	41	12,000
56	高尾もみじ会	180	160	3,000	12 吉沢グループ			
57	高中腎友会	621	596	13,200				
58	高松病院患者会	184	180	51,000				
59	竹口病院腎友会	546	546	28,200	グループ合計	1,526	1,508	150,680
60	立川北口駅前腎友会	200	200	25,200	個人会員	1,028	995	235,100
61	立川相互腎友会希望会	446	448	35,340	都庁職社会保険支部	1,912		
62	立花クリニック友の会	450	454	28,140	不明		21	8,300
63	調布東山クリニック腎友会				総 合 計	43,446	39,926	3,140,347

2003年度患者会別会員数一覧

No	会 名	会員数	No	会 名	会員数
1	愛和腎友会	65	64	調布病院腎友会	30
2	青山会	2	65	調布東山病院腎友会	0
3	赤羽中央病院腎友会	41	66	鶴田クリニック友の会	66
4	昭島腎クリニックひまわり会	163	67	帝京大学病院腎友会	13
5	秋葉原腎クリニック腎友会	61	68	天神橋クリニック腎友会	90
6	あけぼのクリニック友の会	65	69	東海病院ひまわり会	120
7	あけぼの友の会	245	70	東京共済病院腎友会	10
8	阿佐谷すすき腎友会	76	71	東京健生病院サボテン会	55
9	小豆沢病院透析友の会	47	72	東京厚生年金病院腎友会	4
10	飯田橋クリニック腎友会	52	73	東和病院腎友会	66
11	井口腎友会	100	74	虎の門・高津会	155
12	板橋駅前板友会	35	75	中野クリニック腎友会	33
13	稲城市立病院腎友会	15	76	長久保クリニック腎友会	54
14	今尾医院腎友会	54	77	永山腎友会	13
15	入谷クリニック腎友会	27	78	にこたま会	34
16	上野しのばす会	41	79	西口21友の会	30
17	大島腎友会	19	80	長谷川病院腎友会	26
18	大森東クリニック腎友会	58	81	羽村相互診療所だんぼの会	49
19	大山腎友会	46	82	東高円寺フェニックス会	45
20	御徒町腎クリニック友の会	32	83	聖橋クリニック腎友会	99
21	小笠原クリニック友の会	69	84	深川橋クリニック腎友会	95
22	小作クリニック	6	85	福生病院こでまり会	47
23	橋本病院腎友会	64	86	府中けやき会	89
24	菊川橋クリニック腎友会	60	87	豊生会	73
25	嬉泉病院ニール友の会	253	88	望星田無友の会	124
26	北多摩病院腎友会	8	89	町谷原クリニック腎友会	20
27	北病院腎友会	51	90	松村クリニックすみれ会	21
28	吉祥寺あさひ腎友会	145	91	みさと健腎会	11
29	境南クリニック患者会	32	92	瑞江腎クリニック腎友会	44
30	杏林腎友会	21	93	三鷹北口病院腎友会	43
31	貴友会王子病院腎友会	14	94	南大沢パオレ腎友会	27
32	くにたち桜会	57	95	南千住病院河童会	5
33	森の実会	76	96	南多摩病院のぼら会	92
34	薫風園腎友会	6	97	武蔵境駅前クリニック腎友会	67
35	小池会	42	98	村上医院ひまわり会	51
36	江東橋腎友会	85	99	森山病院友の会	144
37	国分寺こやま腎友会	68	100	谷中三和クリニック腎友会	29
38	国分寺南口クリニック親光会	26	101	柳原健腎会	97
39	笹塚愛生クリニック友の会	14	102	山田クリニック腎友会	11
40	三軒茶屋病院腎友会	95	103	大和病院透析友の会	-
41	松和患者会新宿南口支部	75	104	湯島腎友会	17
42	松和患者会西新宿支部	65	105	代々木病院腎友会	106
43	新小岩クリニック友の会	246	106	幸町腎クリニック腎友会	10
44	新緑池袋カトレア支部	90	107	板中腎友会	16
45	新宿水明クリニック腎友会	20	108	桜台腎クリニック	40
46	新松山病院友の会	61		患者会合計	6,166
47	十条腎和会	35			
48	腎研友の会	44	1	青梅市立病院	34
49	すすらん腎友会	58	2	河北グループ	8
50	すすらんの会	45	3	相武台ニールクリニック	10
51	すながわ相互・患者会いずみ	82	4	月島サマリア	4
52	聖蹟さくら会	73	5	東葛クリニック小岩	2
53	聖路加ニール会	80	6	東京女子医大田端グループ	7
54	成和腎クリニック友の会	107	7	西クリニック(武田G)	61
55	全生園	2	8	東村山診療所	2
56	高尾もみじ会	26	9	町屋駅前クリニック	27
57	高中醫友会	59	10	八木内科グループ	10
58	高松病院患者会	56	11	吉沢グループ	3
59	高山クリニック友の会	0		グループ合計	168
60	竹口病院腎友会	49			
61	立川北口駅前腎友会	26		個人会員合計	454
62	立川相互腎クリニック希望会	76			
63	立花クリニック友の会	84		総合計	6,788

二〇〇四年度スローガン（案）

- 一、新しい魅力ある、七五〇〇人の東腎協を！
- 二、腎臓病の予防、治療、研究から社会復帰にいたる腎疾患総合対策の確立を！
- 三、透析医療の質の向上と、誰もが安心して受けられる医療制度の確立を！
- 四、心身障害者医療費助成制度をもとに戻し、医療・福祉施策のますますの発展を！
- 五、東京都医療費助成制度の堅持と医療・福祉のますますの発展を！
- 六、区市町村での医療・福祉の充実を！
- 七、腎臓移植、特に、献腎移植の普及推進を！
- 八、働ける腎機能障害者に職場復帰の道を！
- 九、地震などの災害時における緊急透析体制の早期確立を！
- 十、医療ミスの防止と感染予防の徹底を！

